Panasonic

取扱説明書

業務放送システム　運用支援ソフト

品番 WL-K600

はじめに

機能概要

運用支援ソフト（以下、本ソフトウェア）は、業務放送システム（WL-K600　以下、本システム）の各種設定や操作をパーソナルコンピューター（以下、PC）からケーブル接続やPCカードを経由して行うためのソフトウェアです。本ソフトウェアでは、本システムの放送状態やプログラム実行状態のモニター、プログラム・スケジュールの編集、名称の設定などができます。

取扱説明書について

本書は、本システムの運用支援ソフトの取扱説明書（PDFファイル）です。
本システムの説明書は分冊構成になっています。作業する内容や目的により、参照する説明書が異なります。

説明書	記載内容	対象
業務放送システム　取扱説明書 （別冊）	・緊急放送、業務放送のしかた ・音量調整のしかた ・プログラムコントローラーの操作 ・プログラム設定　　など	放送運用／管理者 工事／設置者
業務放送システム　工事説明書 （別冊）	・システム構成について ・設置・接続方法 ・保守・点検方法 ・本体操作による設定方法 ・PCカードの扱いかた　　など	工事／設置者
運用支援ソフト　取扱説明書（本書）	・運用モニターのしかた ・プログラム設定のしかた　　など	放送運用／管理者 工事／設置者

本体操作に関する詳細は、「業務放送システム　取扱説明書」をお読みください。また、各説明書の「はじめに」は、作業を始める前に、必ずお読みください。
「業務放送システム　工事説明書」に記載されている設置・設定については、お買い上げの販売店（工事会社）にお問い合わせください。

PDFファイルをお読みになるには、アドビシステムズ社のAdobe® Reader®日本語版が必要です。PCにAdobe® Reader®日本語版がインストールされていないときは、アドビシステムズ社のホームページから最新のAdobe® Reader®日本語版をダウンロードし、インストールしてください。

本書では、Microsoft® Windows® Vista™ Businessをご使用の場合を例に説明しています。他のOSをご使用の場合やOSの設定によっては、画面表示が異なる場合があります。
また、ソフトウェアのバージョン情報など本書中に示す画面図は表示例であり、実際のものとは異なる場合があります。

略称について

本書では、以下の略称を使用しています。
Microsoft® Windows® XP Professional SP3日本語版をWindows XPと表記しています。
Microsoft® Windows® Vista™ Business SP1（32ビット）または Home Premium SP1（32ビット）日本語版をWindows Vistaと表記しています。
Windows® ExcelをWindows Excelと表記しています。

必要なPCの環境

OS	Microsoft® Windows® XP Professional SP3 日本語版 Microsoft® Windows® Vista™ Business SP1（32ビット）またはHome Premium SP1（32ビット）日本語版
コンピューター	IBM PC／AT互換機
CPU	動作周波数1.0 GHz以上の32ビット（x86）プロセッサー
メモリー	1 GB以上（Windows Vista） 512 MB以上（Windows XP）
ハードディスク容量	本ソフトウェア用に約100MB必要
CD-ROMドライブ	本ソフトウェアおよび本体接続用専用ドライバーのインストール時に必要
USBポート	システムコントローラーのマイクドア内　PC1コネクターとの接続時に必要
RS-232Cポート	システムコントローラー内部　PC2コネクターとの接続時に必要
PCカードスロット	データの保存時（システムコントローラーへの書き込み）に必要
画面	1024×768ピクセル以上の解像度、True color 24ビット以上
その他	Adobe® Reader®日本語版（本書の閲覧用） プリンター（印刷機能を使用する場合）

※本ソフトウェアのインストールや起動は、管理者権限を持つユーザーで行ってください。管理者権限を持つユーザー以外のユーザーがインストールまたは起動した場合の動作は保証しません。

登録商標・商標について

Microsoft®、 Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Adobe®およびAdobeロゴ、およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

免責について

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用できます。
弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害･被害
②お客様の故意や誤使用、不注意による損害または本商品の破損など
③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
④本商品の故障･不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便･損害･被害
⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便･損害･被害
⑥取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
⑦登録した情報内容が何らかの原因により消失してしまうこと
⑧本体やPCに保存された音声データ、設定データの消失あるいは漏えいなどによるいかなる損害、クレームなど

用語について

本書では、以下の用語を用いて説明しています。

●放送関連

非常放送
火災時の避難誘導放送など、消防法により設置が義務づけられている非常用放送設備（別売品）から行う放送です。どの放送よりも最優先で放送されます。

緊急放送
火災以外の緊急時に行う優先度の高い放送です。
緊急地震速報受信機など外部機器からの信号による自動放送、および緊急放送スイッチによる手動放送があり、地震や事故発生時にも活用できます。
業務放送より高い優先度で行われます（放送中の業務放送は中断されます）。

業務放送
案内放送や呼び出し放送、BGM放送など日常行う放送です。

一斉放送
放送可能なすべての放送先へ一斉に放送します。放送先のボリュームコントローラー（音量調整器）が設置されている場合、その状態によって以下の2種類があります。

＜優先一斉放送＞
放送可能なすべての放送先へ一斉に放送します。放送先のボリュームコントローラー（音量調整器）の設定が「OFF」の場合でも放送を行います。

＜一般一斉放送＞
放送可能なすべての放送先へ一斉に放送します。放送先のボリュームコントローラー（音量調整器）の設定が「OFF」の場合は放送は行われません。

個別優先放送
放送先を選択して行う優先放送です。放送先のボリュームコントローラー（音量調整器）の設定が「OFF」でも放送を行います。

業務選択スイッチ
放送先の選択などを行うスイッチで、以下の3つのいずれかの機能に設定します。

＜スピーカー選択スイッチ＞
放送先をスピーカー回線単位で選択します。同時に複数選択できます。

＜放送ブロックスイッチ＞
複数の放送先をブロックとしてまとめて選択します。

＜メッセージスイッチ＞
放送したい内蔵音源を選択します。標準メッセージやオリジナルメッセージをあらかじめ登録しておき、放送時にスイッチを押して再生します。

優先順位
複数の放送が重複した場合に、重要な放送を優先するように、放送ごとにあらかじめ優先順位を設定します。

先優先／後優先
同じ優先順位に設定してある業務放送が重なったときに、先に放送していた方を優先する場合を「先優先」、後から放送する方を優先する場合を「後優先」といい、あらかじめ設定します。緊急放送は「後優先」のみです。

外部制御入力
本体に接続する外部機器から、本体に送られる制御信号です。本体がこの信号を受信すると設定どおりに自動放送を行います。また、緊急設定（緊急外部制御入力）により、外部からの制御による緊急放送を行うことができます。たとえば、緊急地震速報機が地震発生を感知し、本体に信号を送ることで、本体内蔵音源の緊急メッセージを使用した緊急放送が行えます。

汎用出力
本体に接続する外部機器を動作させるために出力する制御信号です。本体内蔵のプログラムコントローラーや汎用出力スイッチにより制御します。

汎用出力スイッチ
増設用操作ユニットを利用して、汎用出力を手動で操作する機能です。外部機器の制御に使用します。

内蔵音源
本体に登録されているメッセージやコールサインなどの音源です。地震放送用アナウンスやチャイムなどが標準メッセージとして登録されています。必要に応じてその他の音源をオリジナルメッセージ・コールサインとして追加・削除できます。

緊急メッセージ確認機能
緊急外部制御入力を受けたとき、緊急事態発生の状況を確認するために緊急放送を即時開始せず、いったん待機状態とする機能です。メッセージ再生待ち時間を設定し、その時間経過後に緊急放送へ移行します。また待ち時間中に、マイクドア内の放送移行ボタンを押して、緊急放送へ移行することができます。

緊急復旧放送機能
緊急外部制御入力の「終了（復旧）」に連動して、自動で内蔵のメッセージを放送します。たとえば、緊急事態発生中や発生後の注意喚起、行動指示や情報伝達用の放送などに使用できます。

●プログラム関連

プログラムコントローラー
本体内蔵の時計・カレンダーの機能により、プログラムを作成し、決められた時刻にチャイムを放送するなどの時刻に連動した放送管理を行う機能です。

ステップ
放送や機器の動作を、開始時刻・終了時刻・放送／動作の種類でセットにしたプログラムデータの最小単位です。

プログラム
ステップを複数合わせて作る1日分（24時間）のデータです。最大999個のステップを一つのプログラムに設定することができます。また、プログラムは最大16個作成することができます。
プログラムは、曜日ごとまたは、年間のカレンダーに割り付けることができます。たとえば、平日用、休日用などを用意することで週間または年間を通して自動で放送運用ができます。

日付変更時刻機能
プログラムを前日のスケジュールから当日のスケジュールへ切り換える時刻を「日付変更時刻」と呼びます。出荷時は午前0時に設定されています。運用形態に合わせて、任意の時刻に設定できます。

週間スケジュール
16個のプログラムを日曜日から土曜日まで、7つの曜日ごとに割り当てる機能です。

年間スケジュール
16個のプログラムを年間のカレンダーに割り当てる機能です。設定可能な範囲は、今日（設定当日）から起算し1年間（翌年の昨日まで）です。

今日のプログラム
スケジュールに割り当てられたプログラムが日付変更時刻になると、「今日のプログラム」として実行されます。今日のプログラムは、実行中のプログラムとして、16個のプログラム（番号：01～16）とは別に管理されます。

もくじ

はじめに

機能概要 2
取扱説明書について 2
略称について 2
必要なPCの環境 3
登録商標・商標について 3
著作権について 3
免責について 3
用語について 4
もくじ 6
使用上のお願い 9

操作

運用支援ソフトについて 10
運用支援ソフトと本体との関係 11
インストールのしかた 12
アンインストールのしかた 13
起動と終了 14
起動のしかた 14
終了のしかた 15
基本的な操作 16
メニュー画面について 16
運用モニター画面を開くとき 17
文字入力のしかた 17
項目設定・選択のしかた 17
ダイアログのキャンセル操作について 17
ダイアログの閉じる操作について 17
タイトルバー 18
画面イメージの保存 18
画面イメージの印刷 18
通信設定のしかた 19
運用モニターのしかた 20
運用モニターの概要 20
画面について 20
プログラムモニターの使いかた 22
プログラムモニターを表示する 22
タイムバーの見かた 22

スケール設定を変更する 23
画面表示範囲を変更する 23
ステップのリストを表示する 23
放送状態モニターの使いかた 24
放送状態モニターを表示する 24
放送状態の見かた 24
ズーム設定を変更する 24
汎用出力状態の見かた 24
動作履歴モニターの使いかた 25
動作履歴モニターを表示する 25
動作履歴モニターの見かた 25
プログラム設定について 26
設定データとは 26
設定データの本体読み込み 27
設定データのファイル読み込み 28
設定データのファイル保存 29
設定データの本体書き込み 30
設定データのCSVファイル保存 31
プログラムの設定 32
プログラムとは 32
ステップの種類 32
スケジュールの種類 32
プログラムとスケジュールの関係 33
プログラム設定の流れ 34
参考：プログラム例とプログラム設定表記入例 34
プログラム設定メニューの概要 35
プログラム編集のしかた 36
プログラム編集 36
編集するプログラムの選択とステップの選択 36
ステップ編集のしかた 38
プログラムのコピー 39
表示設定のしかた 40
スケジュール設定のしかた 41
週間スケジュールの設定 41
年間スケジュールの設定 42
プログラム・スケジュールのクリア 43
名称設定のしかた 44
動作履歴確認のしかた 46
動作履歴データのファイル読み込み 46

動作履歴データの受信.....47
動作履歴データのテキスト保存.....48
データファイル管理について.....49
ファイルの種類.....49
フォルダーの構成.....49
ロゴ表示領域に画像を表示するには.....50
PCカードについて.....50

必要なとき

警告ダイアログと対処方法.....51
本ソフトウェアの起動時・通信設定時・終了時.....51
本体読み込み時・書き込み時.....51
プログラム設定時.....52
ファイル読み込み・保存時.....52
故障かな!?.....53
プログラム設定表.....54
スケジュール設定表.....55
動作履歴一覧.....56
通信や動作による動作で記録される履歴.....56
異常状態の発生および復旧時に記録される履歴.....58

使用上のお願い

PCはスリープ状態・休止状態にしないでください

・運用支援ソフトをインストールして使用するPCは、スリープ状態や休止状態（一定時間操作しないと自動的にハードディスクが休止する機能）にしないでください。スリープ状態や休止状態になると、正しく動作しなくなる場合があります。

以下の手順で、電源オプション設定を行ってください。

①［スタート］-［コントロールパネル］-［システムとメンテナンス］を選択します。

②［電源オプション］でそれぞれ以下の設定をします。

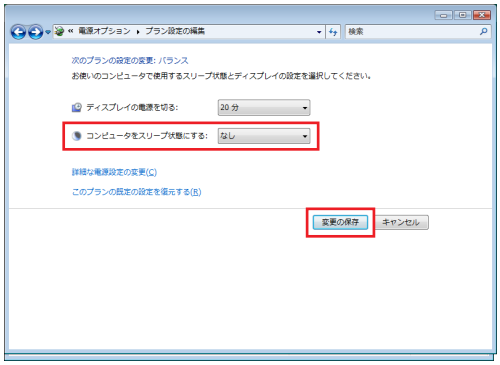
［電源ボタンを押したときの動作］　：［何もしない］または［シャットダウン］

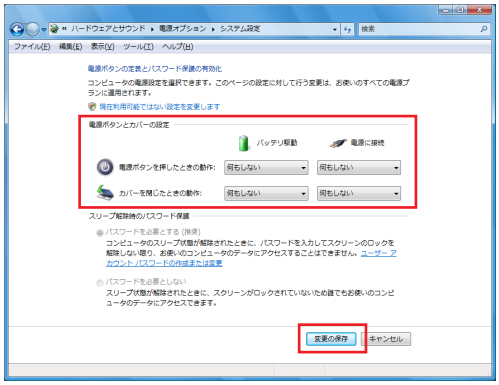
［コンピュータをスリープ状態にする時間の変更］　：［なし］

［カバーを閉じたときの動作］　：［何もしない］

③それぞれ設定したら、［変更の保存］をクリックします。

設定画面例





運用支援ソフト起動中にログオフしないでください

・ログオフすると運用支援ソフトが強制終了しますので、編集中のデータは破棄されます。

設定支援ソフト起動中に起動しないでください

・設定支援ソフトと運用支援ソフトは同時に起動できません。どちらかを終了してから起動してください。

運用支援ソフトについて

本ソフトウェアの主な機能は以下のとおりです：

・運用モニター

・ プログラムの実行状態のモニタリング
・ 放送状態のモニタリング
・ 動作履歴のモニタリング

・プログラム設定

・ 本体とPC間のデータ受け渡し
・ プログラムの作成・編集
・ スケジュールの作成・編集

・名称設定

本ソフトウェアや本体液晶画面に表示する各種名称のカスタマイズ

・動作履歴確認

本体動作履歴の表示・テキスト保存

操作

PCと本体の接続について

本ソフトウェアをインストールしたPCと本体とはケーブル接続し、シリアル通信を行います。
ケーブル接続は以下の2つの方法があり、どちらの方法で接続するかはあらかじめ本体内部で設定してあります（初期設定：PC1コネクター）。設定は販売店（工事店）にご確認ください。設定されていない方法の接続は無効です。

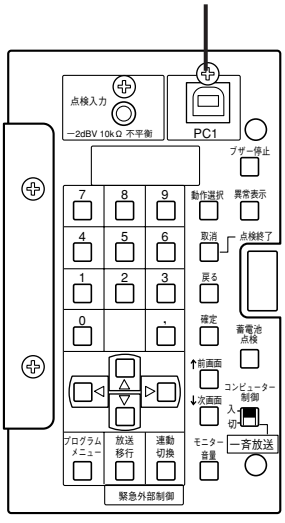
メモ

- PC1／PC2コネクターは同時に使用できません。設置工事前にどちらか一方を選択してください。設定は、販売店（工事店）が行います。

●一時的に接続する場合

本体マイクドア内の［PC1］コネクターにUSBケーブル（2.0規格、A-Bタイプ）を使用して接続します。このコネクターを使用する場合は、専用ドライバーのインストールが必要です。（→12ページ）
この方法での接続は、マイクドアが開いたままになりますので、長時間の運用はお勧めできません。また、本体マイクによる放送時には十分ご注意ください。

PC1コネクター



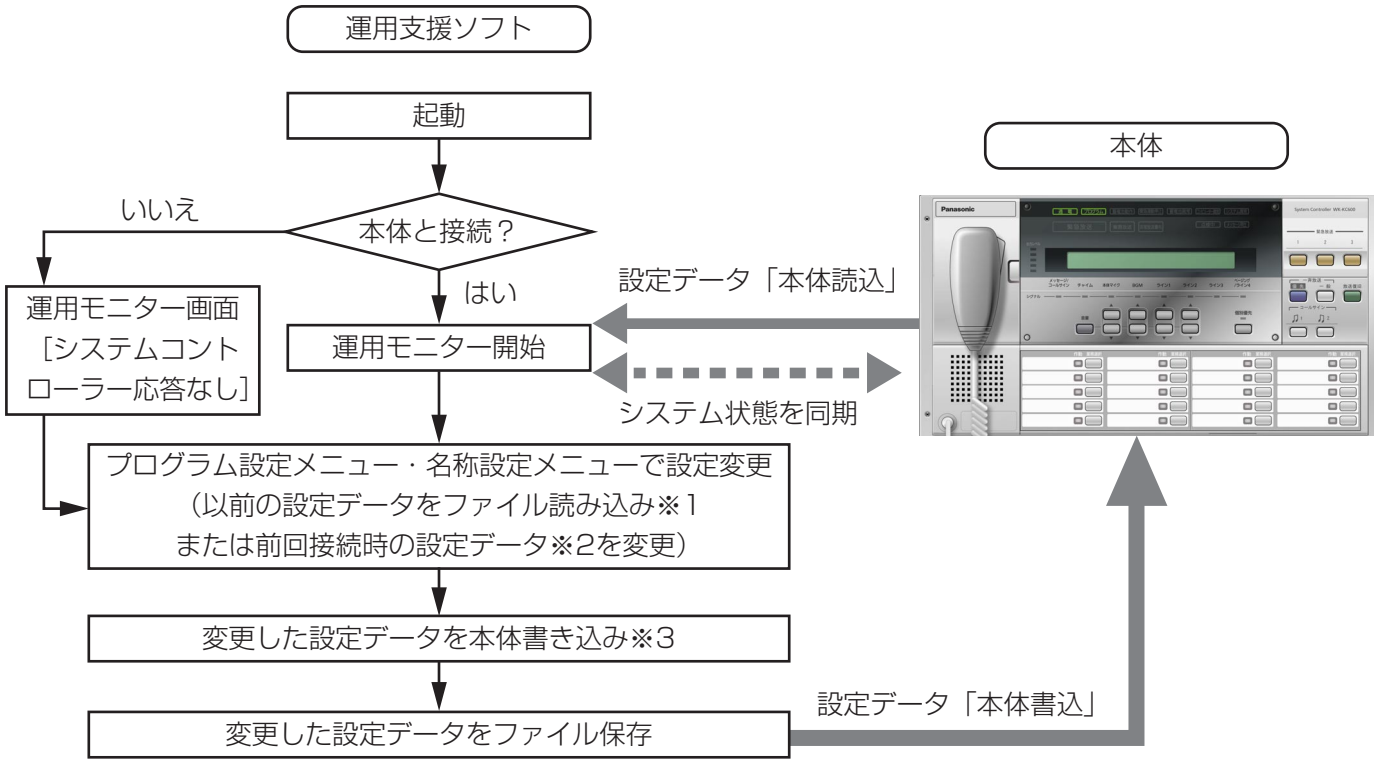
●常時接続する場合

本体内部の［PC2］コネクターにRS-232Cクロスケーブル（D-sub9ピンコネクター）を使用して接続します。お使いのPCにD-sub 9ピンのコネクターがない場合は、USB／RS-232C変換器か変換器付きケーブルを使います。
PC2コネクターは本体内部にありますので、接続は販売店（工事店）にご相談ください。
変換器の専用ドライバーのインストール方法については、USB／RS-232C変換器の取扱説明書をお読みください。

運用支援ソフトと本体との関係

原則として本体とPCとを常時接続して、本ソフトウェアを運用します。
本ソフトウェアを［起動］すると、本体から最新の設定データを読み込み、以降［終了］するまで、最新情報を同期した状態を保ちます。

本ソフトウェア起動中のイメージは以下のとおりです。



※1　以前PCにファイル保存していた設定データを使用できるのは、システムの機器構成や設定が変更されていない場合に限ります。

※2　本体とPCとを接続せずに本ソフトウェアを起動すると、最新の設定データを本体から読み込めないため、プログラム設定メニューや名称設定メニューでは、前回接続時の設定データが表示されます。前回接続時の設定データが存在しない場合は、新規ファイルが開きます。その場合は必ず本体と接続して、以前の設定データの読み込みを行ってください。

※3　設定データをPCから本体に「本体書込」が、

できるのは：
- 本体がスタンバイ状態（放送なし）のとき
- 業務放送中

できないのは：
- 緊急放送中
- 非常放送優先中
- 本体が点検中
- 本体操作によるプログラム設定中
- 本体操作による書き込み中

本体書き込み中に、緊急放送が行われると、書き込みはただちに中止され、それまでの変更内容も破棄されます。
緊急放送終了後、やり直してください。
書き込みできない場合は、それぞれ警告ダイアログ（→51ページ）が表示されます。

インストールのしかた

重要
- 運用支援ソフトを再インストールする場合は、必ずインストール済の運用支援ソフトをアンインストールしてください。ただし、本システムに必要なデータも削除されます。設定データが必要な場合は、アンインストールする前に、データを保存してください。（→49ページ）

■運用支援ソフトのインストール

1 付属のCD-ROMをPCのCD-ROMドライブにセットします。

2 CD-ROM内の下記のファイルをダブルクリックします。
CD-ROMドライブ¥Setup.exe

→運用支援ソフトのインストーラーが起動します。画面の指示にしたがってインストールしてください。

■USBドライバーのインストール

重要
- 本体のマイクドア内のPC1コネクターを使用して運用支援ソフトのPCを接続する場合は、専用ドライバーをインストールしてください。専用ドライバーのインストールは、PCごとに初回の接続時に必要です。
- USB用の専用ドライバーは運用支援ソフトをインストールすると、同時にPCにコピーされます。また、本体に付属のCD-ROMにも含まれています。

1 本体前面のマイクドア内PC1コネクターとPCをUSBケーブルで接続します。（→業務放送システム　工事説明書）

→新しいハードウェアが見つかりました画面が表示されます。

2 ［ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）(L)］をクリックします。

→ユーザーアカウント制御画面が表示される場合は、［続行(C)］をクリックしてください。
新しいハードウェアの検出―FT232R USB UART画面が表示されます。（Windows Vistaの場合のみ）

3 本体に付属のCD-ROMを挿入します。
CD-ROMがない場合は、［ディスクはありません。他の方法を試します(I)］をクリックします。

重要
- Windows　Updateで最新のUSBドライバーを入手したり、上記手順以外で検索されたドライバーでは、動作の保証はできません。必ず本手順で専用ドライバーをインストールしてください。
- 本体に付属のCD-ROMをドライブに挿入してください。新しいハードウェアの検出が自動的に行われます。

4 ［コンピューターを参照してドライバソフトウェアを検索します（上級）(R)］を選択します。

5 ［参照(R)］をクリックし、フォルダーの参照画面で以下のフォルダーを開きます。
ローカルディスク(C:)¥WL-K600¥Driver

6 ［サブフォルダも検索する(I)］にチェックを入れ、［次へ(N)］をクリックします。

→ドライバーのインストールが実行されます。
「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。」と表示され、デバイス名は「USB Serial Converter」となります。

7 ［閉じる］をクリックします。

→再び、新しいハードウェアが見つかりました画面が表示されます。

8 手順2から6を繰り返します。画面は「新しいハードウェアの検出―USB Serial Port」となります。

→ドライバーのインストールが実行されます。
「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。」と表示され、デバイス名は「USB Serial Port」となります。

9 ［閉じる］をクリックして完了です。

→本体と通信を開始するには、COMポートの設定が必要です。「通信設定」（→19ページ）を必ず行ってください。

アンインストールのしかた

重要
- 運用支援ソフトをアンインストールすると、本システムに必要なデータも削除されます。設定データが必要な場合は、アンインストールする前に、データを保存してください。（→49ページ）

1 ［スタート］－［コントロールパネル］－［プログラム］の［プログラムのアンインストール］をクリックします。

2 プログラムの一覧から［業務放送システム　WL-K600　運用支援ソフト］を選択し、［アンインストールと変更］をクリックします。

→アンインストールプログラムが起動します。画面の指示にしたがってアンインストールしてください。
※Windows Vistaをご使用の場合は、このとき、以下の2種類のダイアログが表示される場合があります。
①ユーザーアカウント制御ダイアログの場合
［許可(A)］を選択してアンインストールを進めてください。
②［インストールを継続するには次のアプリケーションを閉じる必要があります：］と表示されたダイアログの場合
［セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する(C)］を選択して、［OK］をクリックしてください。

起動と終了

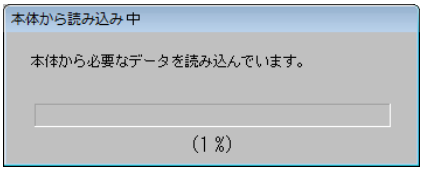
起動のしかた

1 PCデスクトップ上の［業務放送システム　WL-K600　運用支援ソフト］アイコン（右図）をダブルクリックするか、スタートメニューから［すべてのプログラム（P)］-［業務放送システム　WL-K600　運用支援ソフト］を選択します。

→①起動画面→②「本体から読み込み中」ダイアログが表示されたあと、③運用モニターのプログラムモニタリング画面が表示されます。

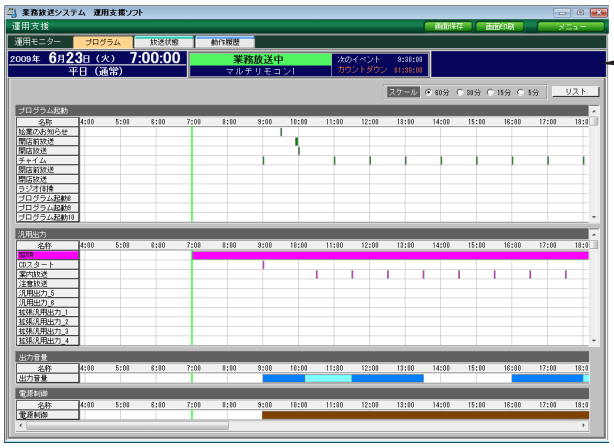
①起動画面

②「本体から読み込み中」ダイアログ



接続・通信していない場合
直接移行

③運用モニターのプログラムモニタリング画面



接続・通信していない場合の画面表示例（一部分）：

重要

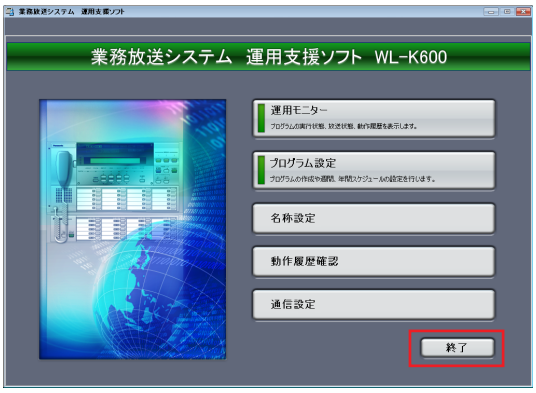
- ②が表示されない場合は、本体とPCとの接続か通信設定（→19ページ）に問題があり、接続していないことを意味します。その場合も③は表示されますが、システム状態表示欄に「システムコントローラー応答なし」と表示されるなど、必要な情報が表示されない状態ということがわかります（→21ページ）。接続を確認してから起動し直してください。

終了のしかた

1 各画面で右上の［メニュー］をクリックし、メニュー画面を表示します。

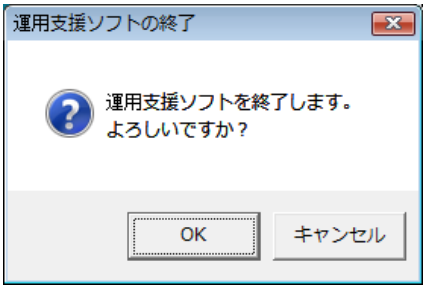
2 ［終了］をクリックします。

→終了確認ダイアログが表示されます。

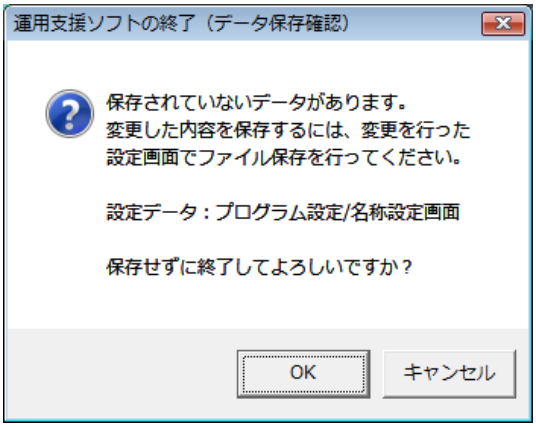


3 ［OK］をクリックします。

→本ソフトウェアを終了します。
［キャンセル］をクリックすると終了せずに元の画面に戻ります。



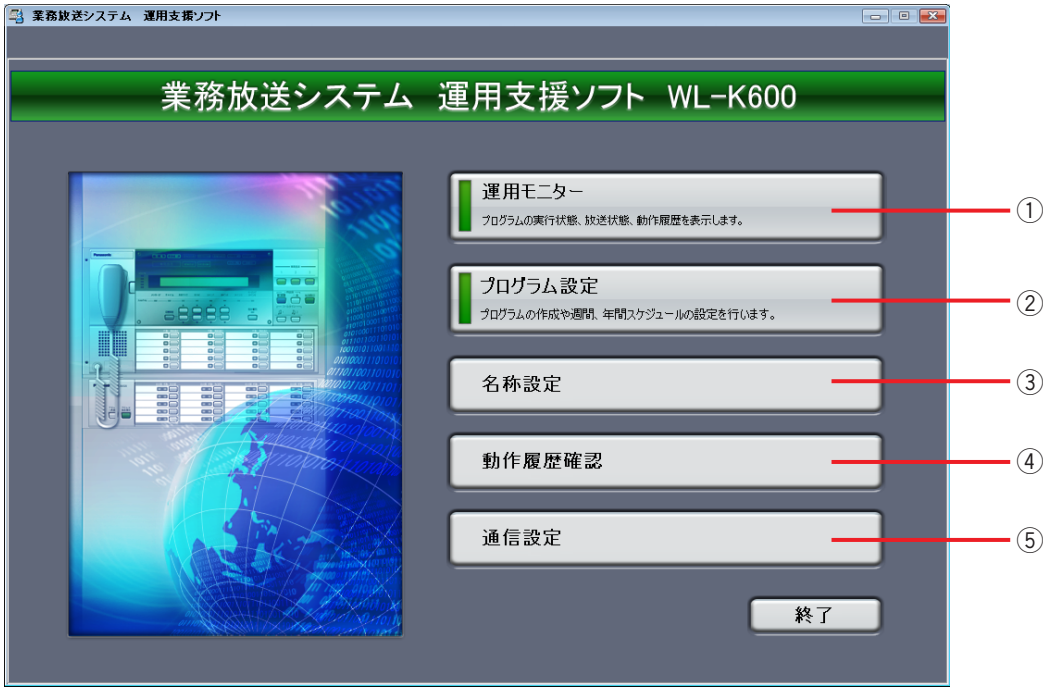
4 プログラム設定メニューや名称設定メニューで変更した内容をファイルに保存していない場合は、手順2で右のダイアログが表示されます。
保存する場合は、［キャンセル］をクリックして変更を行った画面に戻り、［ファイル保存］を実行してください。
［OK］をクリックすると変更内容が破棄されますので、ご注意ください。



基本的な操作

メニュー画面について

本ソフトウェアでは、目的に応じてメニュー画面で項目（ボタン）を選択します。
メニュー画面を開くには、各画面右上の［メニュー］をクリックします。



①運用モニター
運用モニター画面を開きます。
本体と接続している間、プログラムの実行状態・放送状態・動作履歴をリアルタイムモニターします。

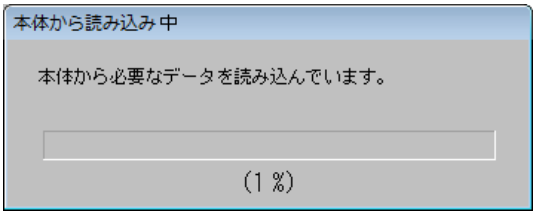
②プログラム設定
プログラム設定メニューを開きます。
プログラム・ステップ・スケジュールの作成・編集・設定をします。本体と接続していると、設定データを本体へ書き込むことができます。

③名称設定
名称設定メニューを開きます。
本ソフトウェアの画面上・本体液晶画面上の各種名称を編集します。本体と接続していると、設定データを本体へ書き込むことができます。

④動作履歴確認
動作履歴確認メニューを開きます。
本体と接続していると、本体から動作履歴データを受信して表示し、そのデータをテキスト保存することができます。

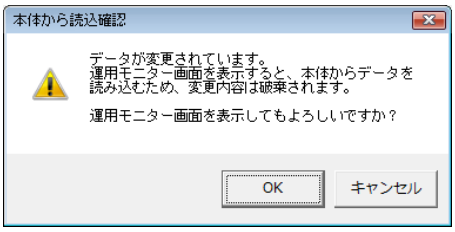
⑤通信設定
COMポート設定メニューを開きます。
本体との通信に使用するシリアルポートのポート番号を設定します。

運用モニター画面を開くとき



［運用モニター］をクリックすると、都度本体の現在の設定状態とシステム状態を本ソフトウェアに読み込みます。

読み込み中は、右のダイアログが表示されます。読み込みが終了すると、運用モニター画面が表示されますので、そのままお待ちください。



プログラム設定メニューや名称設定メニューで編集した設定データを保存せずに、運用モニター画面を開こうとした場合には、右の確認ダイアログが表示されます。
編集した内容を保存する場合は、いったん［キャンセル］をクリックして、元の画面で「ファイル保存」を行ってください。(→29ページ)
［OK］をクリックするとそれまでの編集内容が破棄されますので、ご注意ください。

文字入力のしかた

本ソフトウェアでは、右の画面やダイアログで文字を入力します。
・ファイル（データ）保存ダイアログ
・プログラム設定メニューや名称設定メニューの名称欄　など

名称欄

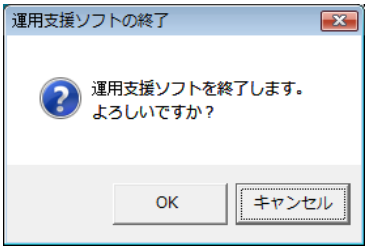
ブロックSW1	ﾌﾞﾛｯｸSW1
ブロックSW2	ﾌﾞﾛｯｸSW2
ブロックSW3	ﾌﾞﾛｯｸSW3

名称欄の文字入力可能な欄は、背景が薄黄色または薄緑色です。クリックすると、薄紫色に変化し、文字入力カーソルが表示されますので、PCのキーボードから入力してください。

項目設定・選択のしかた

名称	表示例	操作方法
コンボボックス	1 平日	［▼］をクリックして表示される項目から選択します。
ラジオボタン	60分 30分 15分 5分	一つだけ選択できます。選択した箇所に●が表示されます。
チェックボックス	機器構成 各部名称 ファイルメモ	一つ以上選択できます。選択した箇所にが表示されます。再度選択すると、解除できます。

ダイアログのキャンセル操作について



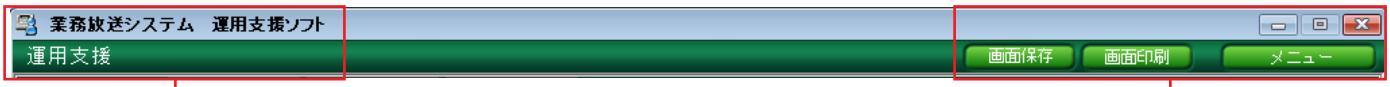
ダイアログに［キャンセル］がある場合はすべて、今実行しようとしている操作や設定を行わず元の画面に戻ります。
以降の操作説明では、［キャンセル］をクリックした場合については説明を省略します 。

ダイアログの閉じる操作について

ダイアログに［OK］と［キャンセル］の両方がある場合、閉じるボタンは［キャンセル］と同じに、［OK］のみの場合の閉じるボタンは［OK］と同じになります。

タイトルバー

本ソフトウェア運用中に表示されるタイトルバーは1種類です。表示されるすべての画面で同じ働きをします。



本ソフトウェア名称・タイトル［運用支援］

最小化ボタン・（最大化ボタン：無効）・閉じるボタン
［画面保存］・［画面印刷］・［メニュー］

・［画面保存］ボタン：現在表示中の画面を画像として保存します。
・［画面印刷］ボタン：現在表示中の画面を画像として印刷します。
・［メニュー］ボタン：現在表示中の画面から、メニュー画面に移動します。

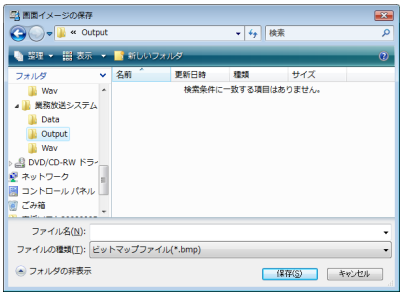
画面イメージの保存

本ソフトウェアの表示画面を画像ファイル（ビットマップ形式、拡張子は.bmp）として保存できます。
画面右上の［画面保存］をクリックすると、そのときに表示されている画面を保存します。

1 各画面で、［画面保存］をクリックします。

→画面イメージの保存ダイアログが表示されます。

2 保存先フォルダーを選択し、ファイル名を入力して［保存］をクリックします。



ファイルの種類はビットマップファイル（*.bmp）のみです。

→ダイアログが消え、元の画面に戻れば完了です。

画面イメージの印刷

本ソフトウェアの画面をPCが印刷可能なプリンターから印刷できます。
画面右上の［画面印刷］をクリックすると、そのときに表示されている画面を印刷します。

1 各画面で、［画面印刷］をクリックします。

→画面イメージの印刷確認ダイアログが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。

→「印刷中･･･」が表示されたあと、ダイアログが消えれば印刷完了です。

メモ

- 画面保存・画面印刷はそのときに表示されている画面が対象です。たて方向・横方向の一部が隠れている場合があります。たて横のスクロールバーのノブの位置を参考にして、保存・印刷したい箇所が画面に表示されていることを確認してください。

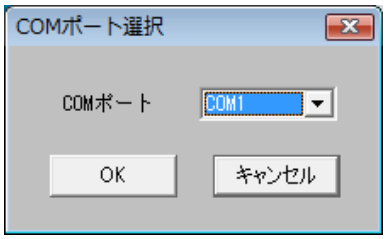
通信設定のしかた

本体とPCはケーブルを接続しただけでは通信はできません。通信用のCOMポートを開いてください。
あらかじめデバイスドライバーのインストールが必要な場合があります。（→12ページ、13ページ）

1 メニュー画面で［通信設定］をクリックします。

→COMポート選択ダイアログが表示されます。

2 使用しているPCのシリアル通信用COMポート番号を選択し、［OK］をクリックします。

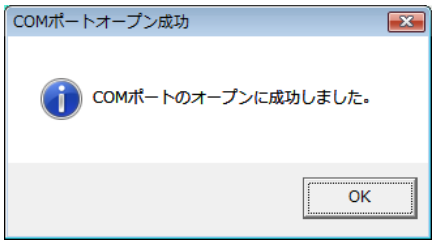


COMポート番号の確認のしかた：

①［スタート］-［コントロールパネル］-［システムとメンテナンス］を選択します。
②［デバイスマネージャー］をクリックします。
→ユーザーアカウント制御画面が表示される場合は、［続行(C)］をクリックします。
③［ポート（COMとLPT)］で以下のポート番号を確認します。
PC1コネクター使用の場合：「USB Serial Port」
PC 2 コネクター使用の場合：「通信ポート」

→COMポート選択ダイアログでこの番号を選択してください。

→COMポートオープン成功ダイアログが表示されれば完了です。



メモ

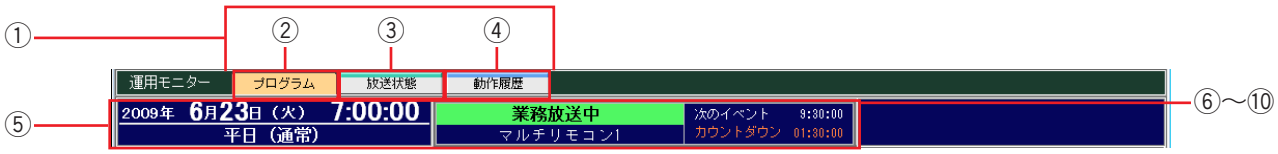
- COMポートオープン失敗ダイアログが表示された場合は、手順2で正しいポート番号を再度確認してください。
- PC1コネクターを使用する場合、ケーブルを接続するPC側のUSBコネクターを変更すると、COMポート番号が変わることがあります。その場合は、COMポートオープン失敗ダイアログが表示されますので、再度、上記手順でCOMポート番号を確認し、通信設定をしてください。
- PCの管理者権限がないユーザーで通信設定を行うと手順2で警告ダイアログが表示される場合があります。本ソフトウェアは、管理者権限を持つユーザーで使用してください。
- 運用支援ソフト起動中にケーブルの抜き挿しを行うと、PCがCOMポートを正しく認識しない場合があります。その場合は、運用支援ソフト終了後、改めてケーブルの抜き挿しを行い、運用支援ソフトを再起動してください。

運用モニターのしかた

運用モニターの概要

運用モニター画面では、本システムの運用状態をリアルタイムにモニター（監視）します。
モニター項目は全部で3つに大別されています。以下の図と説明を参考に、モニター対象項目を選択して開きます。

画面について



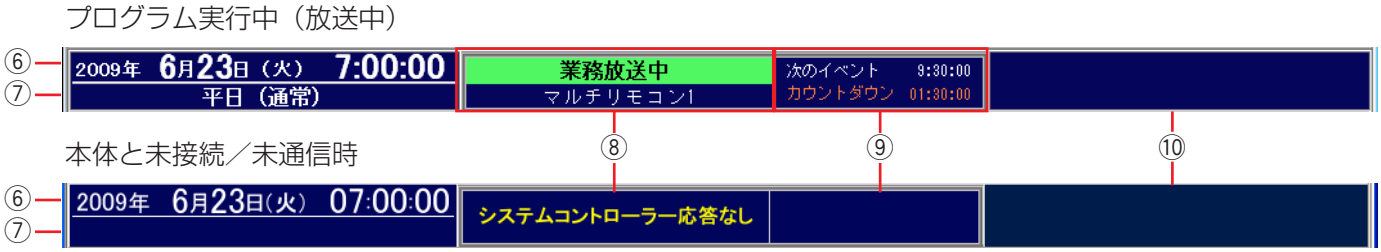
①モニター選択タブ
モニターしたい項目のタブを選択します。タブの色がハイライト強調になっている項目が、今表示されているモニター画面です（図中は［プログラム］が選択されている状態）。

②［プログラム］タブ
実行中のプログラムを、起動入力別、ステップ種類別に時間軸でカラーグラフ表示しています。全体の流れを視覚的に把握できます。
起動時はこのタブが自動的に開きます。

③［放送状態］タブ
入力マトリクスユニットの各入力CHに割り当てられた起動入力と放送先（スピーカー回線）の関連をマトリックス形式で表示します。現在の放送状態を確認できます。同時に、汎用出力の動作状態も確認できます。

④［動作履歴］タブ
本体および接続している各機器間の動作状態や通信記録、異常内容などをリアルタイムに確認できます。

⑤共通部
全タブ共通で、今日の日付、現在時刻、実行中のプログラム名称、放送中の起動入力名、次に実行されるイベント、残時間が表示されます。本体との通信や機器の状態に異常が発生した場合は、その内容を表示します。



⑥日付・現在時刻表示
今日の日付と現在時刻を表示します。本体と接続・通信している場合は、本体液晶画面に同期しています。本体と未接続時、本体でプログラム停止中は、PCの時計に同期します。

⑦プログラム名称表示
実行中の今日のプログラム名称を表示します。本体と未接続、本体でプログラムが停止中の場合は何も表示されません。

⑧システム状態表示
システムの状態を文字と背景色で表示します。上段にはシステムの状態を、下段には補助情報を表示します。背景色が表す状態は以下のとおりです（画面表示例→次ページ）。

赤色：強い注意・警告。非常放送優先状態・異常状態の発生時など
黄色：緊急放送中
緑色：業務放送中
橙色：注意喚起。点検中・設定データ書き込み中など
紺色：スタンバイ状態（放送なし）

【画面表示例】

システム状態表示の主な表示例を以下に示します。以下の状態が複数同時に発生した場合は、優先順位の高いものが表示されます。

高 ▲ 表示優先順位 ▼ 低

システムコントローラー応答なし	本体と通信不通の状態。このときモニター機能は無効。
非常放送優先中	非常放送が（外部機器より）優先的に放送中。 本システムからの放送・操作は行えません。
運用点検中	運用点検中です。他に、［手動点検中］、［設定データ操作中］、［設定データ書き込み中］、［プログラムテスト中］ 下段：テスト中のプログラム番号とテスト時刻
緊急放送中 緊急放送SW1	緊急放送中。下段：起動入力名称 業務放送や本体への書き込み操作はできません。
異常発生 スピーカー回線短絡...	異常が発生しています。下段：異常内容※1※2
業務放送中 マルチリモコン1	業務放送中。下段：起動入力名称※1※3

※1　複数同時に発生した場合：［...］
※2　異常内容は、本体液晶画面で確認できます。（→業務放送システム　取扱説明書）
※3　起動入力名称は、本体液晶画面でも確認できます。（→業務放送システム　取扱説明書）

メモ

- システム状態表示は、プログラムによる放送以外に、本体操作やリモコンマイクからの放送の状態なども反映されます。実行中のプログラムの状態とは一致しない場合があります。

⑨次イベント表示

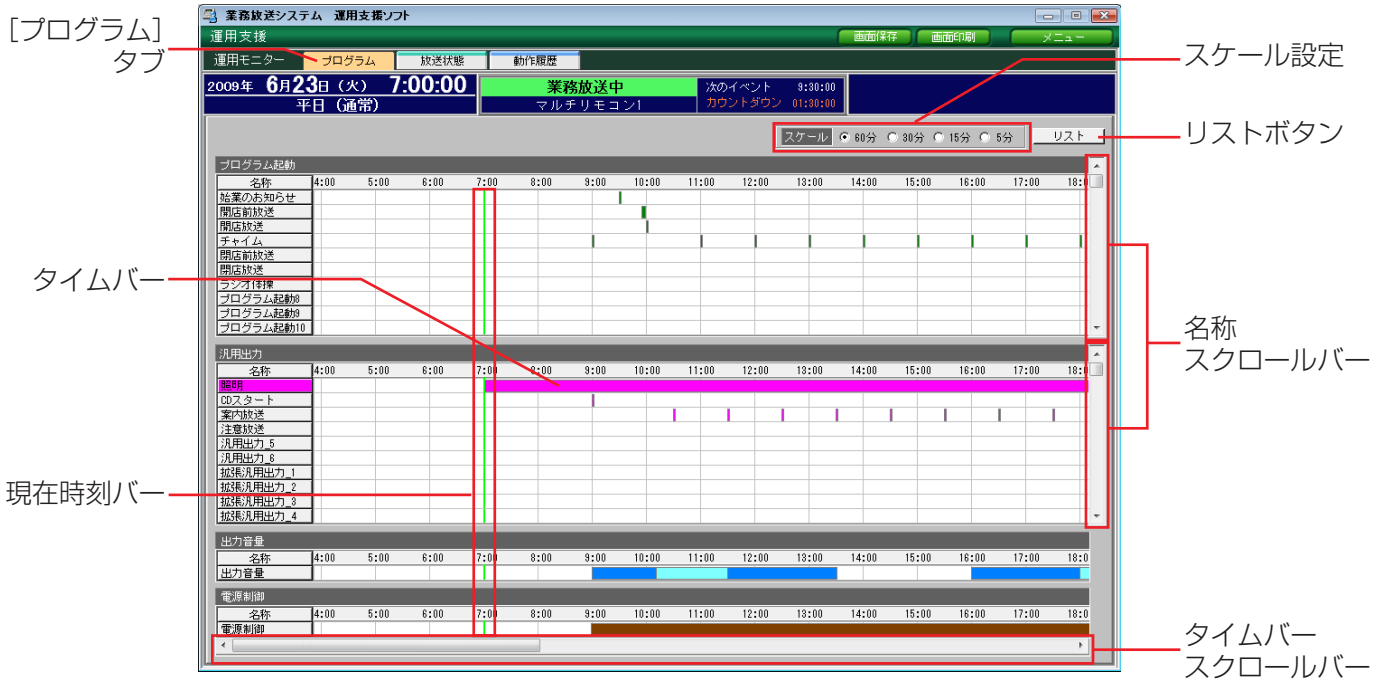
上段：次に実行する予定のイベント（プログラム起動・汎用出力）の開始時刻
下段：現在時刻からのイベント開始時刻までの残り時間をカウントダウン方式で表示
本体と未接続、プログラムが停止中の場合は、何も表示されません。

⑩システム状態表示

社名やロゴなどの画像（ビットマップデータ）を表示できます。
※ロゴ表示方法（→50ページ）

プログラムモニターの使いかた

「今日のプログラム」の実行状態をモニターします。（プログラムとは→32ページ）



プログラムモニターを表示する

メニュー画面で［運用モニター］を選択し、［プログラム］タブをクリックして開きます。
本ソフトウェアを起動した直後は自動的に開かれます。

タイムバーの見かた

ステップが設定されている時間帯（開始時刻から終了時刻）に、タイムバーが表示されます。
タイムバーは、ステップ種類により色分けされています。

プログラム起動	：緑色	
汎用出力	：ピンク色	
出力音量	：青	（音量設定値：45以上）、
	水色	（音量設定値：45より小さい）
電源制御	：茶色	

名称欄に色が付いているものが現在実行中のステップです。現在実行中のステップのタイムバーは、**現在時刻バー**と重なっています。

汎用出力、電源制御は、プログラムによる制御以外で動作している場合にも名称欄の色が変化します。

画面上に一度に表示できる起動入力・汎用出力の項目数は限られているため、表示されていない範囲を見るには、**名称スクロールバー**で上下に動かし、画面表示範囲を調整してください。表示する各項目数と項目種類の設定は選択できます。（表示設定のしかた→40ページ）

スケール設定を変更する

グラフのスケール（1目盛りの単位）を変更して、お好みの状態で表示します。
全体を見渡すには大きめの目盛りを、詳細を見るには小さめの目盛りを選ぶと便利です。
以下の4種類の中から一つ選択してください（初期設定：60分）。
選択するには、対象のラジオボタンをクリックします。

スケール	画面表示範囲	表示の特徴
60分	約14時間	1目盛りは1時間です。 タイムバーの最小単位は、60秒（1分）での表示になります。 この設定では、60秒間に複数のステップが存在する場合は、1つのステップにまとまっているように見えます。
30分	約7時間	1目盛りは30分です。タイムバーの最小単位は30秒で表示されます。
15分	約3時間30分	1目盛りは15分です。タイムバーの最小単位は15秒で表示されます。
5分	約1時間	1目盛りは5分です。タイムバーの最小単位は5秒で表示されます。

画面表示範囲を変更する

現在時刻バーは、表示画面の左から約3分の1の位置に表示され、タイムバーグラフおよびタイムバーは時間の経過とともに自動的にスクロールします。画面に表示されていない時間帯を表示させるには、**タイムバースクロールバー**で左右に動かして、画面表示範囲を調整してください。
無操作で12秒経過すると、自動スクロールの状態に戻ります。

ステップのリストを表示する

［リスト］をクリックすると、「ステップリスト」が表示され、現在実行中の「今日のプログラム」のステップが、時刻順に整列された表で一覧できます。

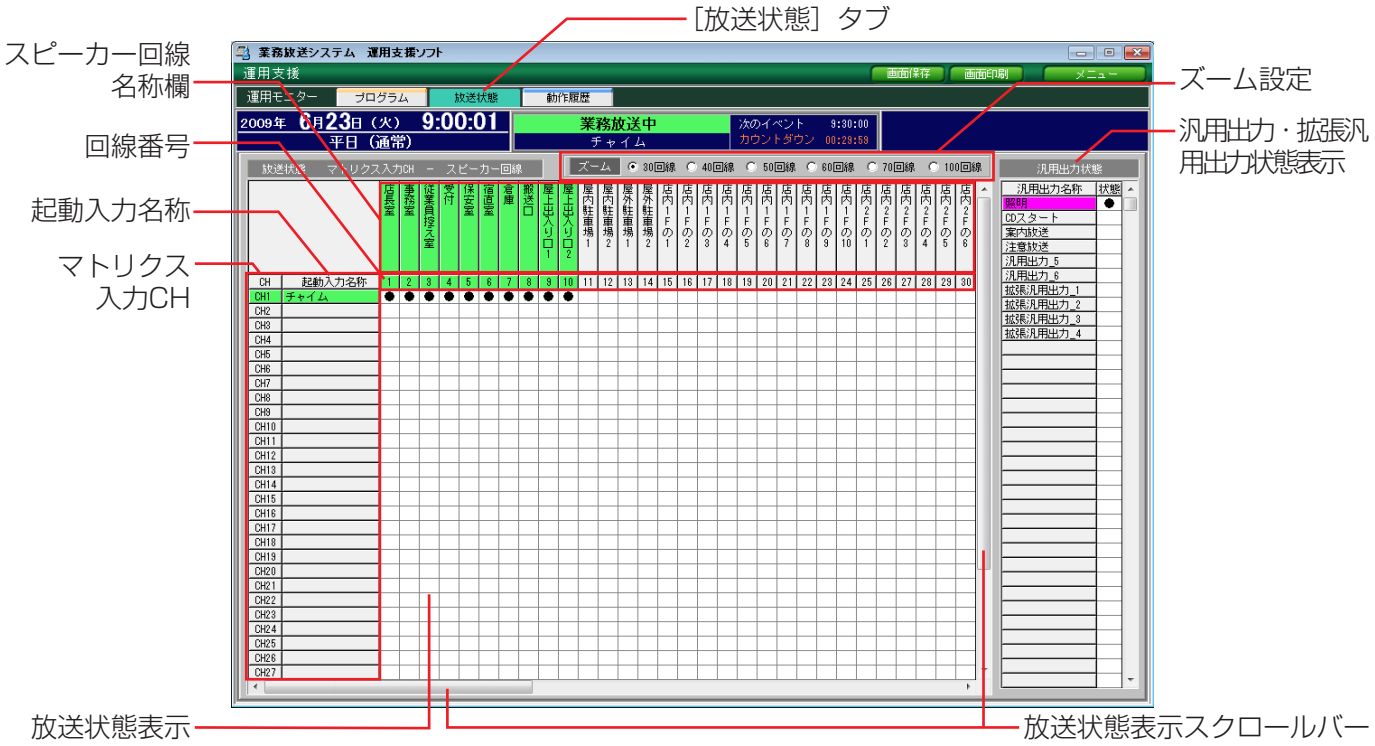
・［起動入力］、［汎用出力］、［出力音量］、［電源制御］欄は、設定されたステップの種類に［●］が表示されます。
・開始時刻が同じステップは、終了時刻の早い順に整列されます。
・「名称」欄には、放送対象、動作対象の名称が表示されます。
・出力音量のステップは、音量設定値が表示されます。
・ダイアログを閉じるには、［閉じる］をクリックします。

メモ

- 運用モニター画面共通部のシステム状態表示は、プログラムによる放送以外に、本体操作やリモコンマイクからの放送の状態なども反映されるので、実行中のプログラムの状態とは一致しない場合があります。
- プログラム実行開始時刻は、「日付変更時刻」に設定されている時刻です。日付変更時刻を確認するには、運用モニター画面のプログラムモニター画面でタイムバースクロールバーを左端または右端に移動させ、表示時刻の開始または終わりを確認してください。その時刻が設定されている「日付変更時刻」です。

放送状態モニターの使いかた

放送状態、汎用出力の実行状態をモニターできます。



放送状態モニターを表示する

運用モニター内の別のタブ画面を表示している場合は、［放送状態］タブをクリックし、運用モニター画面以外を表示している場合はいったんメニュー画面に移動し、［運用モニター］－［放送状態］の順にクリックして開きます。

放送状態の見かた

・放送中は、入力マトリクスの入力CH番号と起動入力名称（たて軸）、およびスピーカー回線名称とその番号（横軸）が緑色背景表示になり、交差する箇所に「●」が表示されます。放送が終了すると、背景色も「●」も元に戻ります。
・同一の入力CHで複数の起動入力が放送された場合は、あらかじめ設定された放送の優先順位にしたがい、優先順位の高い起動入力名称が表示されます。
・スピーカー回線名称欄には、各スピーカー回線番号に設定された名称が表示されます（→44ページ）。行われる放送が優先放送（ボリュームコントローラーの設定がOFFの状態でも放送）の場合は、スピーカー回線番号とその名称欄は、黄色に変わります。
・すべての放送状態のうち、画面表示範囲外の部分は、たて横の放送状態表示スクロールバーを適宜動かして表示範囲を調整してください。

ズーム設定を変更する

画面上に一覧表示できるスピーカー回線数を変更して、必要に応じてお好みの状態で表示します。
30回線から100回線までの6段階から一つ選択してください（初期設定：30回線）。
変更するには、選択したい回線数のラジオボタンをクリックします。
回線数を多くすると、表示サイズが非常に小さくなりますが、一度に多くのスピーカー回線の状態を見ることができます。

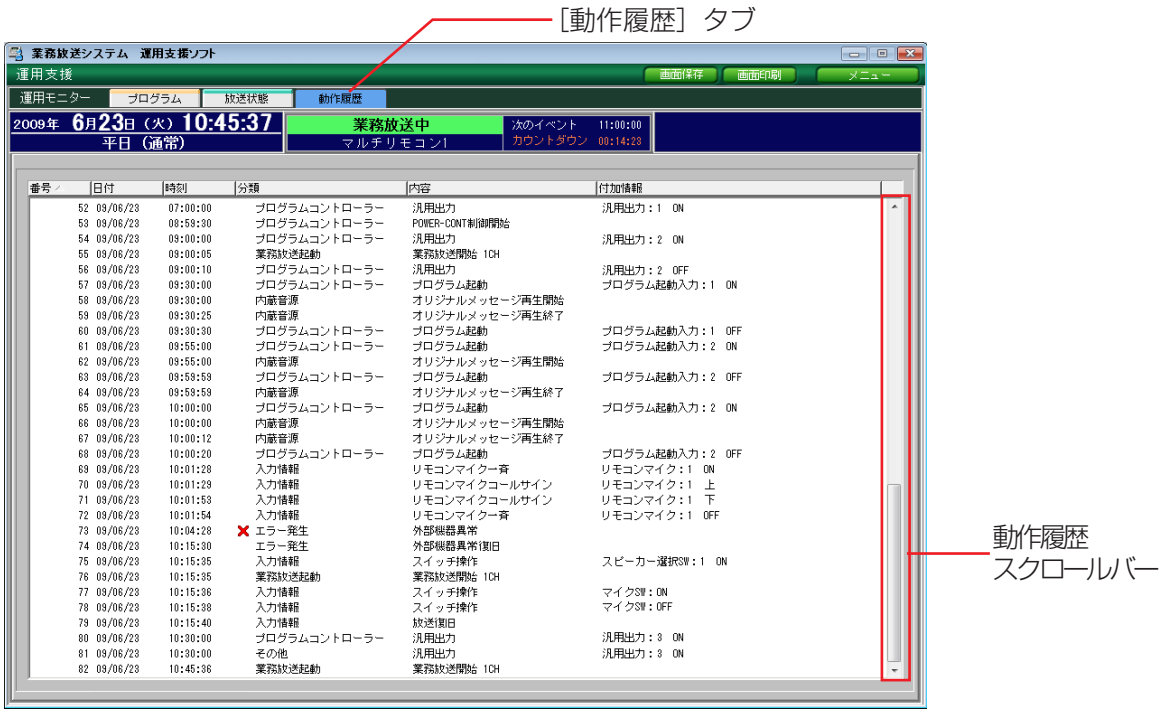
汎用出力状態の見かた

現在制御中の汎用出力・拡張汎用出力は、名称の背景色がピンク色に変わり、状態欄に「●」が表示されます。
ここに表示される順番は、汎用出力（1～最大10）→拡張汎用出力（1～最大140）の順です。プログラム設定の「表示設定」（→40ページ）で表示する対象を選択できます。
制御が終了すると、背景色と「●」は元に戻ります。

動作履歴モニターの使いかた

本体の動作履歴データをリアルタイムにモニターできます。
主に保守・点検のために使用する機能ですので、通常の運用時には使用しません（正常時にこの画面を開いても運用には影響ありません）。

運用中に異常があった場合は、この画面を表示し、分類欄に［ ✖ ］マークが付いていた場合は販売店（工事店）にご連絡ください。（動作履歴一覧→56ページ）



動作履歴モニターを表示する

運用モニター内の別のタブを表示している場合は、［動作履歴］タブをクリックし、運用モニター画面以外を表示している場合はいったんメニュー画面に移動し、［運用モニター］－［動作履歴］の順にクリックして開きます。

動作履歴モニターの見かた

動作履歴は、動作（イベント）が発生した時刻順に随時記録され、画面表示内容は記録が追加されるたびに更新されます。
動作履歴モニター画面中の表示項目を説明します。

番号　　：通し番号です。動作が発生した順に自動付与されます。※1
日付　　：動作が発生した日付です。表示形式：（西暦）年年／月月／日日※1
時刻　　：動作が発生した時刻です。表示形式：24時間制、秒単位まで。※1
分類※2　：発生した動作の種類を表示します。※1
内容　　：発生した動作の内容を表示します。※1
付加情報：［内容］の更に詳しい情報を表示します。

※1 項目名をクリックすると、表示順序（昇順／降順）を切り換えられます。（昇順：［△］，降順：［▽］）
※2 各動作履歴は、発生した動作の重要度によって3種類に分類されマークが付いています。
　マークなし：通信や操作による動作を示します。
　✖　　：異常状態が発生したことを示します。
　△　　：異常状態から復旧したことを示します。

表示内容は自動スクロールされますので、いつも最新の動作履歴が表示されます。画面表示範囲以外の内容を表示させたい場合は、動作履歴スクロールバーを動かして調整します。

プログラム設定について

本機はご利用のシステム状況に応じた各種設定を行う必要がありますが、納入時には販売店（工事店）によって設定されています。ユーザーが本ソフトウェアを使ってできる設定に「プログラム設定」と「名称設定」があり、より便利にお使いいただくためにカスタマイズすることができます。
それ以外の放送や運用に関わる設定を変更したいときは、販売店（工事店）にご相談ください。

設定データとは

本システムの状況に合わせた機器構成や、使用する機能に対して設定したデータを「設定データ」といいます。本ソフトウェアで取扱う「プログラム設定」と「名称設定」で設定・保存するデータは「プログラムデータ、名称データ」といい、「設定データ」の一部分です。本体と本ソフトウェア間で行うデータの受け渡しについては以下のとおりです。

・本体読み込み［本体読込］：本体から本ソフトウェアにデータを吸い上げること（図中Ⓐ）
本ソフトウェア起動時、運用モニター画面表示時、［本体読込］ボタンクリック時に実行されます。

・本体書き込み［本体書込］：本ソフトウェアから本体にデータを入力すること（図中Ⓑ）
［本体書込］ボタンをクリック時に実行されます。

本体（システムコントローラー）

Ⓐ本体読み込み
内容物：
設定データ「プログラムデータ、名称データ」とそれ以外の設定データ

Ⓑ本体書き込み
内容物：
「プログラムデータ、名称データ」のみ

運用支援ソフト

［プログラム設定］メニューと［名称設定］メニューを開いているときにこのメニューバーが表示されます。

設定データは、名称やプログラムを変更したら、設定データの一部分が変わることになりますので、都度PCに保存［ファイル保存］します。変更途中で保存して、後日［ファイル読込］し、その続きから変更を再開することもできます。
設定データのファイル拡張子は「.gs1」、データサイズは、約2 MByte です。

設定データはCSV形式で出力することもできます。CSV形式のファイルは、Microsoft Excelなどの表計算ソフトで開きます。編集もできますが、その編集結果は［ファイル読込］の対象ではないため、本ソフトウェアでは読み込めません。

以降では、設定データの扱いかたとして、［本体読込］、［ファイル読込］、［本体書込］、［ファイル保存］、［CSV保存］の順に説明します。画面例は、プログラム設定メニューを表示しますが、名称設定メニューでも操作方法・操作結果は同じです。

［クリア］については後述します（→43ページ）

設定データの本体読み込み

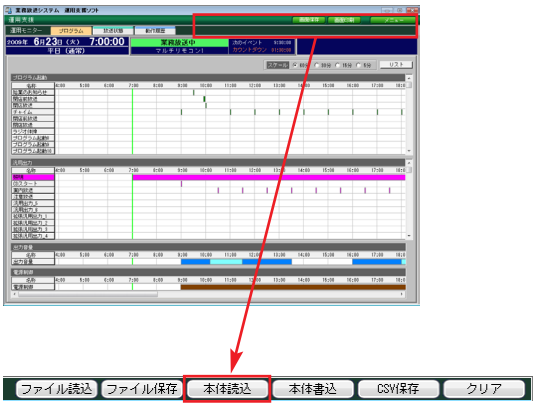
現在のシステムの設定を本体から読み込みます。
本ソフトウェアを起動すると、本体と正常に接続・通信している場合は、自動的に本体読み込みを開始しますので以降の操作は不要です。
プログラム設定メニューや名称設定メニューで編集中のデータがある場合は、本体読み込みの前にファイル保存（→29ページ）を行ってください。

重要

- 本体とPCを接続せずに本ソフトウェアを起動した場合は、プログラム設定メニュー・名称設定メニューでは前回接続時の設定データが表示されます。前回接続時の設定データが存在しない場合は、新規ファイルとなりますので、そのまま編集すると、現在の設定を変えてしまう恐れがあります。システムの機器構成や設定を変更しないよう、以前にファイル保存した設定データをファイル読み込み（→28ページ）して使用してください。

1 本体とPCが接続されている状態で、メニューバーの［本体読込］をクリックします。

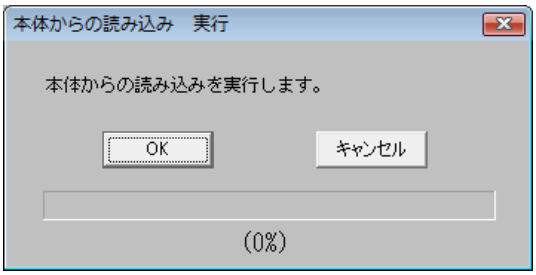
→本体からの読み込みダイアログが表示されます。



2 ［OK］をクリックします。

→本体と正常に接続・通信している場合は、読み込みが始まります。読み込みを開始すると、途中でキャンセルはできません。

※COMポートオープン失敗ダイアログが表示される場合は、接続の状態や通信設定（→19ページ）を確認してください。



3 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→元の画面に戻り、本体の設定データが反映されます。

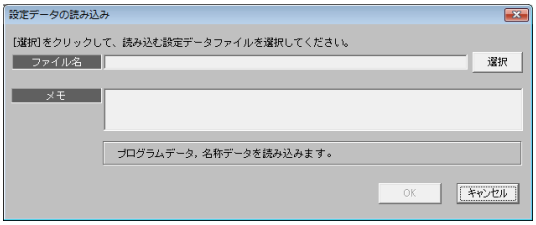
設定データのファイル読み込み

以前に作成し、PCに保存していた設定データを使うときに表示させます。変更途中で保存してあったファイルを、後日［ファイル読込］し、その続きから変更を再開することもできます。
編集中のデータがある場合は、読み込む前にファイル保存（→29ページ）を行ってください。

1 メニューバーの［ファイル読込］をクリックします。

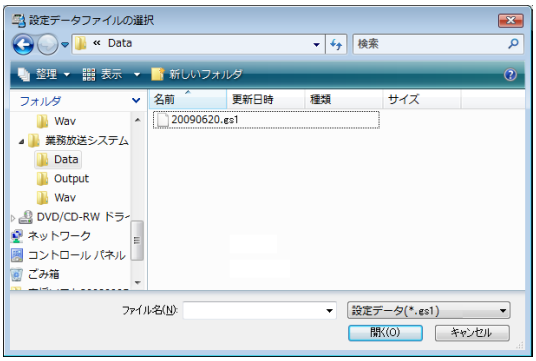
→設定データの読み込みダイアログが表示されます。

2 ［選択］をクリックします。



→設定データファイルの選択ダイアログが表示されます。

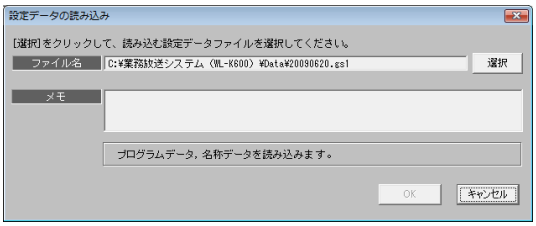
3 読み込むファイルを選択し、［開く］をクリックします。



※ファイルの種類は、設定データ（*.gs1）に固定です。
※フォルダーは［ファイル保存］で保存した際の保存場所を選択してください。初期設定では、以下のフォルダーが開きます。
C:¥業務放送システム¥Data

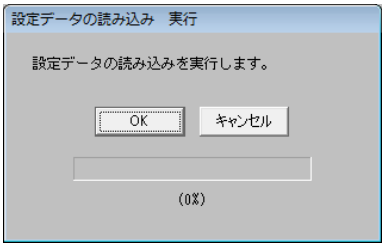
→設定データの読み込みダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



→設定データの読み込み実行ダイアログが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



→読み込みが始まります。
読み込みを開始すると、途中でキャンセルはできません。

6 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→元の画面に戻り、選択した設定データが表示されます。

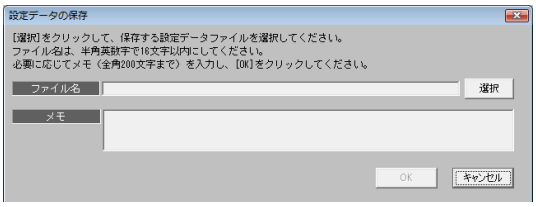
設定データのファイル保存

編集した設定データをPCのハードディスクまたは各種メディアに保存します。
設定データ編集後、すぐに本体書き込みする場合も、データ管理のためにファイル保存することをおすすめします。

1 メニューバーの［ファイル保存］をクリックします。

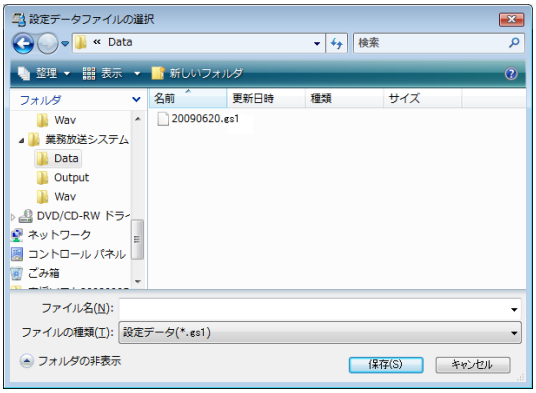
→設定データの保存ダイアログが表示されます。

2 ［選択］をクリックします。



→設定データファイルの選択ダイアログが表示されます。

3 新規に保存する場合は、ファイル名を入力します。既存のファイルに上書き保存する場合はそのファイル名を選択し、［保存］をクリックします。



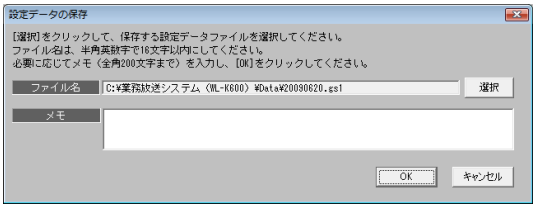
※保存先のフォルダーは初期設定では以下のフォルダーが開きますが、任意に選択してもかまいません。
C:¥業務放送システム¥Data

※ファイルの種類は、設定データ（*.gs1）に固定です。

重要
- ファイル名に使用できる文字は、以下の制限があります。
  ・文字種：半角英数字、半角記号（—_！＃＄＆@）
  ・文字数：最大16文字
- PCに保存した設定データファイルのファイル名を変更する場合は、ファイル名に使用できる文字の制限にしたがったファイル名を設定してください。

→設定データの保存ダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。

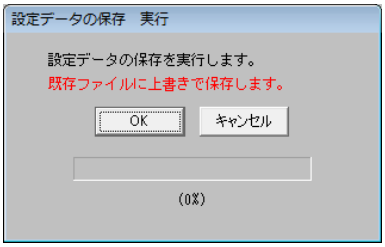
4 「メモ」をクリックして入力します。
設定データの簡単な内容など、ファイル名に補足したい情報があればご利用ください。空白のままでもかまいません。
・文字数：全角100文字（半角200文字相当、全半角混合入力可）



5 ［OK］をクリックします。

→設定データの保存実行ダイアログが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。



→保存が始まります。
保存を開始すると、途中でキャンセルはできません。
すでに同じ名前のファイルが存在する場合、注意文が表示されますので、上書きしない場合はキャンセルして別の名前を付けてください。

7 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします

→元の画面に戻ります。

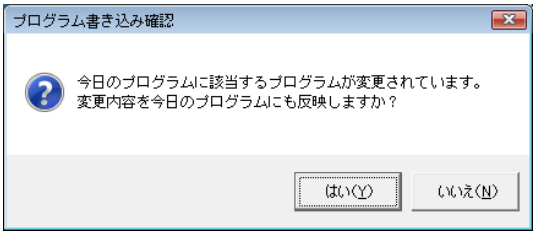
設定データの本体書き込み

プログラム設定や名称変更などの設定が終わったら、そのデータを本体に書き込み、情報を同期させます。
書き込みするデータを画面上に表示させてください。PCに保存された設定データを書き込む場合は、あらかじめファイル読み込み（→28ページ）を行って、画面上に表示してから実行してください。

1 本体と正常に接続・通信している状態で、メニューバーの［本体書込］をクリックします。

→「今日のプログラム」（→36ページ）が変更されている場合は、プログラム書き込み確認ダイアログが表示されますので、手順2へ進んでください。それ以外は、手順3に進んでください。

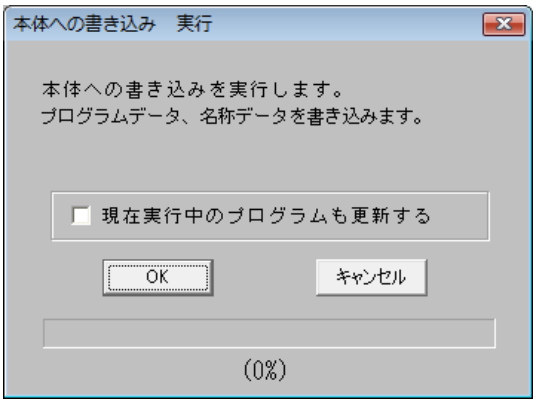
2 「今日のプログラム」の変更内容を編集元のプログラムにも反映するかどうかを選択します。編集元のプログラムも変更する場合は［はい］を、今日のプログラムのみ変更する場合は［いいえ］をクリックします。



→本体への書き込み実行ダイアログが表示されます。

3 変更内容を現在実行中のプログラム（今日のプログラム）にも反映するかどうかを選択します。

［現在実行中のプログラムも更新する］にチェックを入れると変更内容を今日のプログラムにも反映します。



※チェックを入れると、書き込み完了後の本体動作が新しいプログラム内容に切り換わります。重要な放送が行われていないことを確認してから実行してください。
※今日のプログラムを直接編集した場合は、［現在実行中のプログラムも更新する］に自動的にチェックが入り、チェックをはずすことはできません。

4 ［OK］をクリックします。

→書き込みが始まります。書き込みを開始すると、途中でキャンセルはできません。

※COMポートオープン失敗ダイアログが表示される場合は、本体と正常に接続・通信しているかどうかを確認してください。（→19ページ）
※本体が業務放送中の場合、本体書き込み実行確認ダイアログが表示されます。［OK］をクリックすると、書き込みを開始します。

5 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→元の画面に戻ります。

設定データのCSVファイル保存

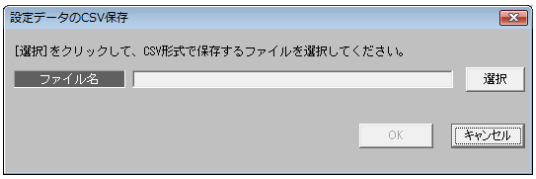
独自のシステム設定表を作成したり、設定内容を印刷して記録として残したりする場合に、設定データの全部または選択項目をCSV形式でPCに保存することができます。

・CSV保存は、プログラムデータを含むすべての設定データが対象です。
・CSV形式のファイルとは、カンマで区切られた定型のテキスト形式ファイルで、Microsoft Excelなどの表計算ソフトで開きます。編集もできますが、その編集結果は［ファイル読み込み］の対象ではないため、本ソフトウェアでは読み込めません。
・CSV保存を行う前に、ファイル保存してください（→29ページ）。未保存のデータはCSV保存できません。

1 メニューバーの［CSV保存］をクリックします。

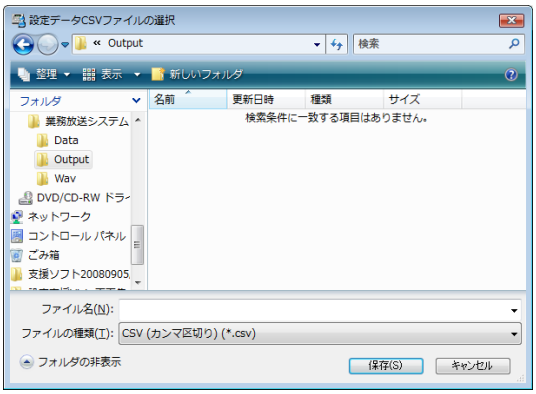
→設定データのCSV保存ダイアログが表示されます。

2 ［選択］をクリックします。



→設定データCSVファイルの選択ダイアログが表示されます。

3 新規に保存する場合は、ファイル名を入力します。既存のファイルに上書き保存する場合はそのファイル名を選択し、［保存］をクリックします。



※保存先のフォルダーは初期設定では以下のフォルダーが開きますが、任意に選択してもかまいません。
C:¥業務放送システム¥Output

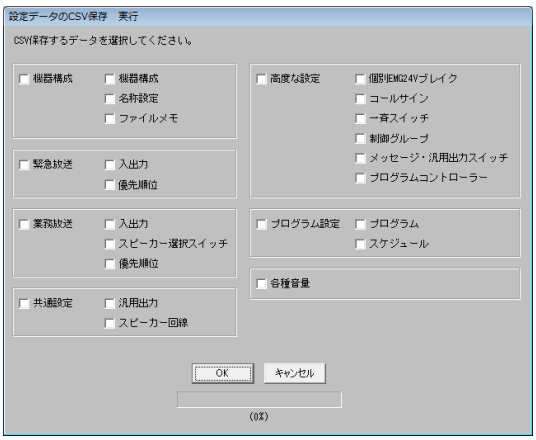
※ファイルの種類は、CSV（カンマ区切り）（*.csv）に固定です。

→設定データのCSV保存ダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

→設定データのCSV保存　実行ダイアログが表示されます。

5 保存したい項目にチェックを入れ、［OK］をクリックします。
※各グループの先頭の項目をチェックすると、そのグループ全部にチェックが入ります。
※一つもチェックを入れずに［OK］をクリックすると、警告ダイアログが表示されます。



→保存が始まります。
保存を開始すると、途中でキャンセルはできません。
すでに同じ名前のファイルが存在する場合のみ注意文が表示されますので、上書きしない場合はキャンセルして別の名前を付けてください。

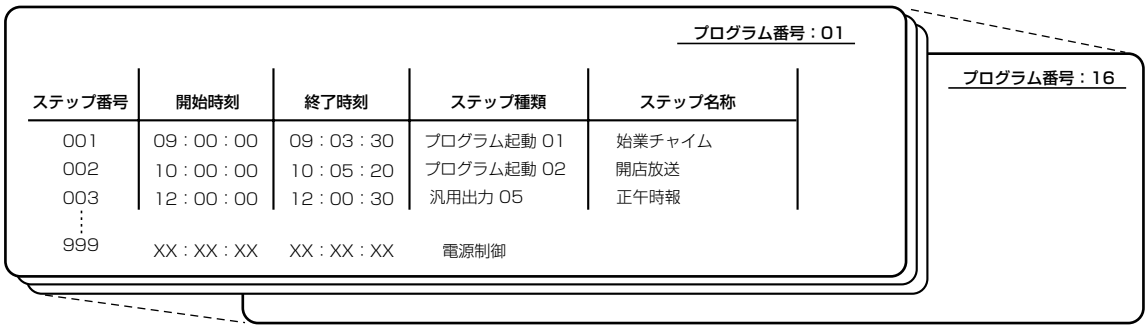
6 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→元の画面に戻ります。

プログラムの設定

プログラムとは

あらかじめ決めた時刻に放送する、あるいは機器を動作させるために作成するデータをプログラムと呼びます。プログラムは、開始時刻、終了時刻、放送対象または動作対象（ステップ種類）からなるステップを一つの単位として、複数のステップにより構成されます。プログラム作成は、放送または動作させたい時間帯とステップ種類を設定することで行います。



・本体には、プログラムが16個まで登録できます。
・1プログラムあたり999ステップまで登録できます。
・プログラムは1日（24時間）単位で作成します。
・16個のプログラムを曜日にあてはめて週間スケジュールとしたり、1年間のカレンダーにあてはめて年間スケジュールとしたりできます。
・「日付変更時刻設定」機能により、プログラムの1日が始まる時刻を任意に設定できます。日付変更時刻の設定については販売店（工事店）にご確認ください。

ステップの種類

プログラムは、以下の4種類のステップを組み合わせて作成します。これらの内容は、システムに応じてあらかじめ設定されています。販売店（工事店）にご確認ください。

プログラム起動：20個まで設定可能で、「何を（音声）、どこへ（スピーカー回線）」放送するかがあらかじめ設定されています。
汎用出力　　：最大150個まで設定可能で、どの外部機器を制御するかがあらかじめ設定されています。
出力音量　　：システムコントローラーからの放送の音量を変えるときに使用します。
電源制御　　：放送に先立ち、アンプなどの電源を入れるときに使用します。電源制御ユニット（WU-L62：別売）に接続された機器の電源を投入できます。

スケジュールの種類

作成したプログラムは、以下の2種類の方法でスケジュールとして設定できます。

週間スケジュール：日曜から土曜の各曜日に一つのプログラムを割り当てます。複数の曜日に同じプログラムを割り当てることができます。週間スケジュールが年間スケジュールの基本となります。
年間スケジュール：祝日などで、週間スケジュールとは異なるプログラムを割り当てたい場合は、日付を指定して割り当てます。今日から翌年の昨日まで（1年間）設定可能で、これを年間スケジュールと呼びます。

プログラムとスケジュールの関係

以下のような週間・年間スケジュールを設定した場合を例にとって説明します。

・月曜から金曜は、平日用のプログラム番号1を週間スケジュールとして割り当てています。土曜と日曜は休日用のプログラム番号2を週間スケジュールとして割り当てています。

・4月29日～5月6日の平日は、会社は休日となるため、この期間だけ土曜・日曜と同じ休日用のプログラム番号2を年間スケジュールとして割り当てます。

・5月9日は土曜ですが、特別出勤日となるため、この日は月曜から金曜と同じ平日用のプログラム番号1を年間スケジュールとして割り当てます。

5月6日を今日とした場合の例

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

カレンダー

週間スケジュール

月曜～金曜：平日用「プログラム番号1」

土曜・日曜：休日用「プログラム番号2」

年間スケジュール

○:休日用「プログラム番号2」:4月29日～5月6日の月曜から金曜

◌:平日用「プログラム番号1」:5月9日

今日のプログラム：反転表示部分：5月6日

本体側は以下の動きとなります。

①日付変更時刻になる → ②年間スケジュールに割り当てられたプログラム番号の内容が「今日のプログラム」にコピーされる → ③年間スケジュール設定がない日の場合、週間スケジュールに割り当てられたプログラム番号の内容が「今日のプログラム」にコピーされる → ④「今日のプログラム」の実行が開始される

・日付変更時刻以降は、スケジュールに割り当てられたプログラム番号が「今日のプログラム」にコピーされ、動作を開始します。
運用モニター画面の実行中のプログラム表示には、元となったプログラムの名称が表示されます。

・上記の例では、5月6日の日付になった時点で、年間スケジュールで割り当てたプログラム番号2が、今日のプログラムにコピーされ、実行を開始します。

・年間スケジュール設定がなく、週間スケジュールだけが設定されている日（例えば5月7日）は、週間スケジュールで木曜日に割り当てたプログラム番号1が、今日のプログラムにコピーされます。

・スケジュール間の優先順位は、以下の図のようになります。

週間スケジュール　年間スケジュール　今日のプログラム

低 ← 優先順位 → 高

・当日になってプログラムの一部を変更する場合は、「今日のプログラム」を修正します。（システムコントローラー前面パネルの操作でプログラムを変更する場合は、プログラム番号：「キョウ」を選択します。）また、プログラムを丸ごと変更する場合は、「プログラム差し換え」により当日または前日に変更できます。（→業務放送システム　取扱説明書）

・本ソフトウェアで「今日のプログラム」を変更するには、本体と接続して運用モニター画面を表示するか、プログラム設定メニューで本体読込を行うかして、「今日のプログラム」を読み込む必要があります。

プログラム設定の流れ

＜項目＞	＜内容＞	＜参照ページ＞
設定内容の確認	プログラム起動、汎用出力など、プログラムで実行できる内容を確認します。	（販売店（工事店）より設定表を入手してください）
↓		
プログラム設定表の記入	必要に応じて作成するプログラムを設定表に記入します。	54
↓		
プログラムの作成	プログラム設定-プログラム編集タブでプログラムを作成します。	36
↓		
週間スケジュールの設定	必要に応じて作成したプログラムを週間スケジュールに割り当てます。	41
↓		
年間スケジュールの設定	必要に応じて作成したプログラムを年間スケジュールに割り当てます。	42
↓		
本体書き込みの実行	作成したプログラムを本体に書き込みます。	30
↓		
終了		

※プログラムの変更とスケジュールの変更は、必要に応じて適宜行ってください。

参考：プログラム例とプログラム設定表記入例

プログラムイメージ
（店舗などの場合）

開始時刻	～	終了時刻	ステップで実行すること
07:00:00	～	23:30:00	店舗の照明を点灯する
08:59:30	～	23:00:00	アンプの電源を入れる
09:00:00	～	23:00:00	BGMを全館に放送
09:30:00	～	09:30:30	始業のお知らせをバックヤードに放送
09:55:00	～	09:59:59	開店前放送を全館に放送
10:00:00	～	10:00:20	開店放送を全館に放送
:		:	:
10:30:00	～	10:30:30	案内放送を全館に放送
:		:	:

プログラム設定表記入例　プログラム番号：1　プログラム名称：平日

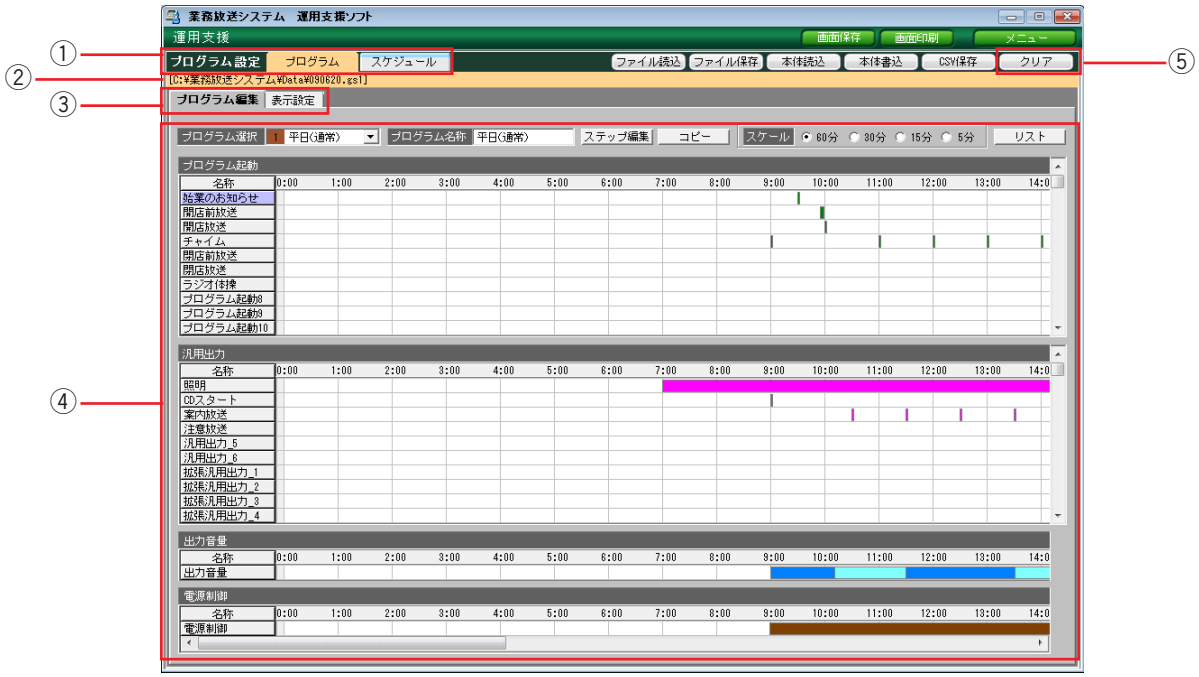
開始時刻	終了時刻	プログラム起動		汎用出力		出力音量	電源制御	備考
		番号	名称※	番号	名称※	設定値		
07:00:00	23:30:00			1	照明			
08:59:30	23:00:00						●	
09:00:00	23:00:00			2	CDスタート			
09:30:00	09:30:30	1	始業のお知らせ					
09:55:00	09:59:59	2	開店前放送					
10:00:00	10:00:20	3	開店放送					
:	:							
10:30:00	10:30:30			3	案内放送			
:	:	:		:				

※名称は、本ソフトウェア上で表示する名称で、「名称設定」（→44ページ）で変更できます。

プログラム設定メニューの概要

プログラム設定メニューでは、プログラムの編集とスケジュールの設定をします。
ここでは、まずプログラム設定メニューの構成と共通の操作について説明します。
プログラム設定メニューは、メニュー画面で［プログラム設定］をクリックして開いてください。

＜プログラム設定メニューの構成＞



①プログラムタブ・スケジュールタブ
プログラムの作成／編集などを行うときは［プログラム］タブを、週間スケジュール／年間スケジュールの設定を行うときは［スケジュール］タブを選択します。

②ファイル名表示
画面上に表示している設定データのファイル名を表示します。設定データをファイル読み込みした場合は、保存先のフォルダーのパスから表示します。

③設定画面切り換えタブ
①で［プログラム］タブ選択時は、設定領域には［プログラム編集］タブと［表示設定］タブが表示されます。①で［スケジュール］タブ選択時は、設定領域に［週間スケジュール］タブと［年間スケジュール］タブが表示されます。

④設定領域
①および③で選択したタブにしたがい、設定用の領域が表示されます。

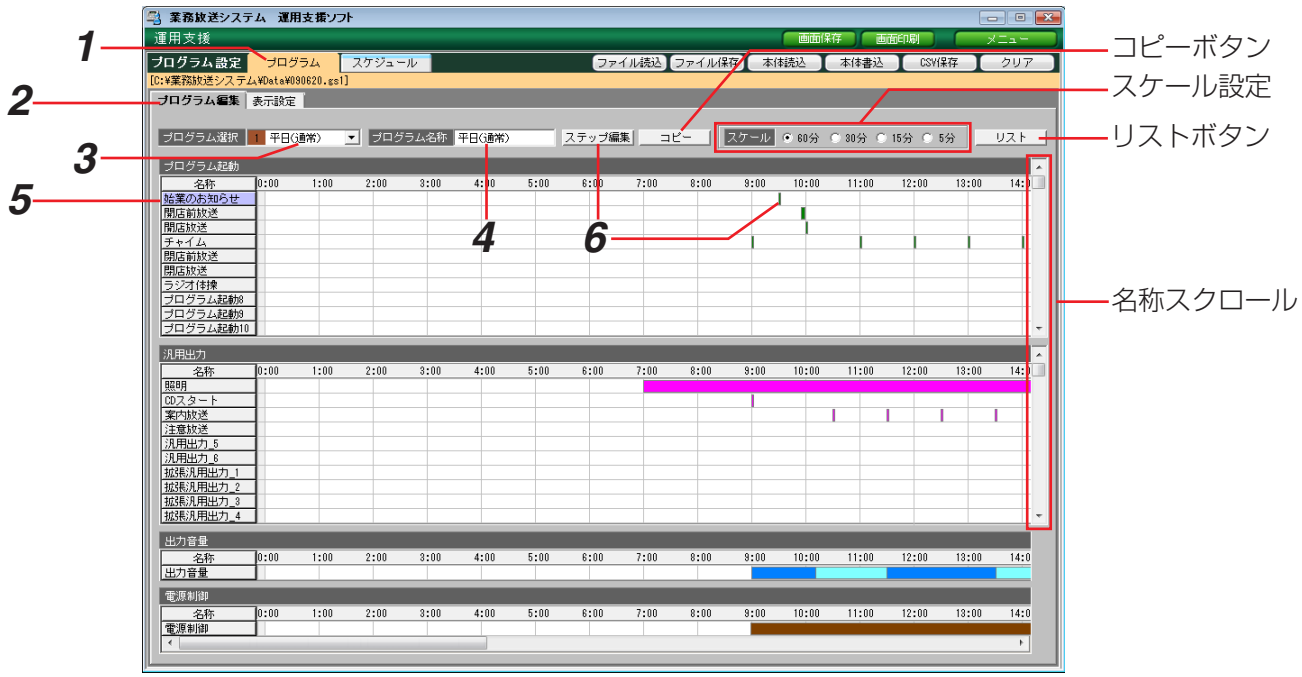
⑤メニューバーボタン　［クリア］
設定したプログラムやスケジュールを消去します。消去したデータは元に戻せません。

プログラム編集のしかた

プログラム編集

プログラムを新規に作成したり、既存の内容を変更したりします。
表示画面は、プログラムモニター画面とほぼ同じ構成です（モニター共通部・現在時刻バーのみ非表示）。
※スケール設定、リストボタンについては、「プログラムモニターの使いかた」（→22ページ）

編集するプログラムの選択とステップの選択



1 ［プログラム］タブを選択します。

2 ［プログラム編集］タブを選択します。

3 編集するプログラム番号（1～16）を選択します。
色分けされた番号とプログラム名称がコンボボックスに表示されます。
※「今日のプログラム」はプログラム番号16の下に表示されます。空欄になっている場合は、本体読み込みを行うと表示され「今日のプログラム」を編集できます。（→27ページ）

→選択したプログラムの内容が表示されます。

4 手順3で選択したプログラム番号の名称を変更する場合は、［プログラム名称］欄に入力します。
・入力文字数：全角8文字（半角16文字）まで
・色は固定です。
※「今日のプログラム」の名称は、編集できません。

メモ
- 「今日のプログラム」を編集し、本体に書き込むには、PCと本体の日付を合わせておく必要があります。あらかじめPCの日付と本体の日付が一致していることを確認してください。

5 編集したい放送対象、動作対象の［名称］欄をクリックします。
編集したい名称が画面上に表示されていない場合は、画面右端の名称スクロールを上下に操作して表示させます。見つからない場合は［表示設定］で非表示に設定されている可能性がありますのでご確認ください。
（→40ページ）

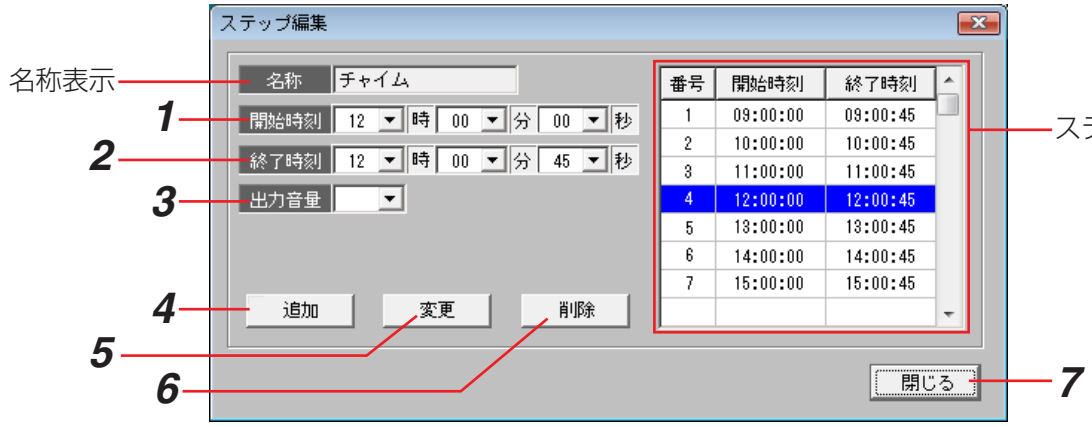
→選択した［名称］欄が紫色に変わります。

6 ［ステップ編集］をクリックします。

→ステップ編集ダイアログが表示されます。
※編集したいステップのタイムバーをダブルクリックしても、表示させることができます。
※編集する名称を選択せずに［ステップ編集］をクリックした場合は、プログラム起動の1行目に表示されている項目のステップ編集ダイアログが開きます。

ステップ編集のしかた

・名称表示欄には、選択した放送対象、動作対象の名称が表示されていることをご確認ください。
・ステップ一覧には、既存のステップが時刻の早い順に表示されています。
・別の放送対象、動作対象を編集したい場合は、プログラム編集画面の名称欄の項目をクリックします。このダイアログは開いたままでも、いったん閉じてもかまいません。



1 ステップの開始時刻を入力します。時・分・秒のそれぞれをコンボボックスで選択します。

2 ステップの終了時刻を入力します。開始時刻より1秒以上遅い時刻を入力してください。

3 「出力音量」は、編集対象に［出力音量］を選択した場合のみ、設定可能です。手順1と2で設定した時間帯に放送の出力音量を設定します。
※［出力音量］が設定されていない時間帯は、出力音量は45に設定されています。

4 新たにステップを追加する場合は、［追加］をクリックします。

→設定した開始時刻と終了時刻で、新しいステップがステップ一覧と設定領域に追加されます。

5 既存のステップの内容を変更したい場合は、ステップ一覧で対象のステップを選択し、手順1～3を行って［変更］をクリックします。

→選択したステップの内容が更新されて、ステップ一覧とプログラム編集画面に表示されます。

6 既存のステップを削除したい場合は、ステップ一覧で対象のステップを選択し、［削除］をクリックします。

→選択したステップがステップ一覧と設定領域から削除されます。

7 ［閉じる］をクリックすると、本ダイアログを閉じます。

ステップの設定は以下の条件を満たす必要があります。設定できないステップを追加／変更しようとした場合は、警告ダイアログ（→52ページ）が表示されます。
・終了時刻は必ず開始時刻よりあとに設定する。
・同じ時間帯に、同一のプログラム起動や同一の汎用出力を複数のステップで設定しない。
・日付変更時刻をまたぐステップは作成しない。
・一つのプログラムは最大999ステップまでの登録とする。

プログラムのコピー

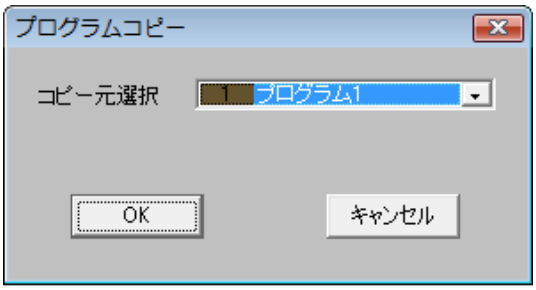
既存のプログラムを、現在表示している画面（選択したプログラム番号）にコピーします。コピー対象は「プログラム名称」を除くすべてで、コピーはすべて上書きです。

1 プログラム編集画面で［コピー］をクリックします。

→プログラムコピーダイアログが表示されます。

2 コピーしたいプログラム番号をコンボボックスから選択し、［OK］をクリックします。

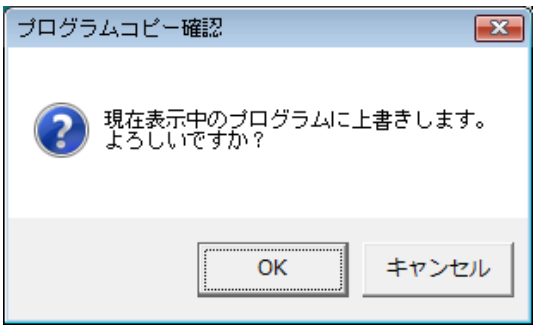
→プログラムコピー確認画面が表示されます。



3 ［OK］をクリックします。

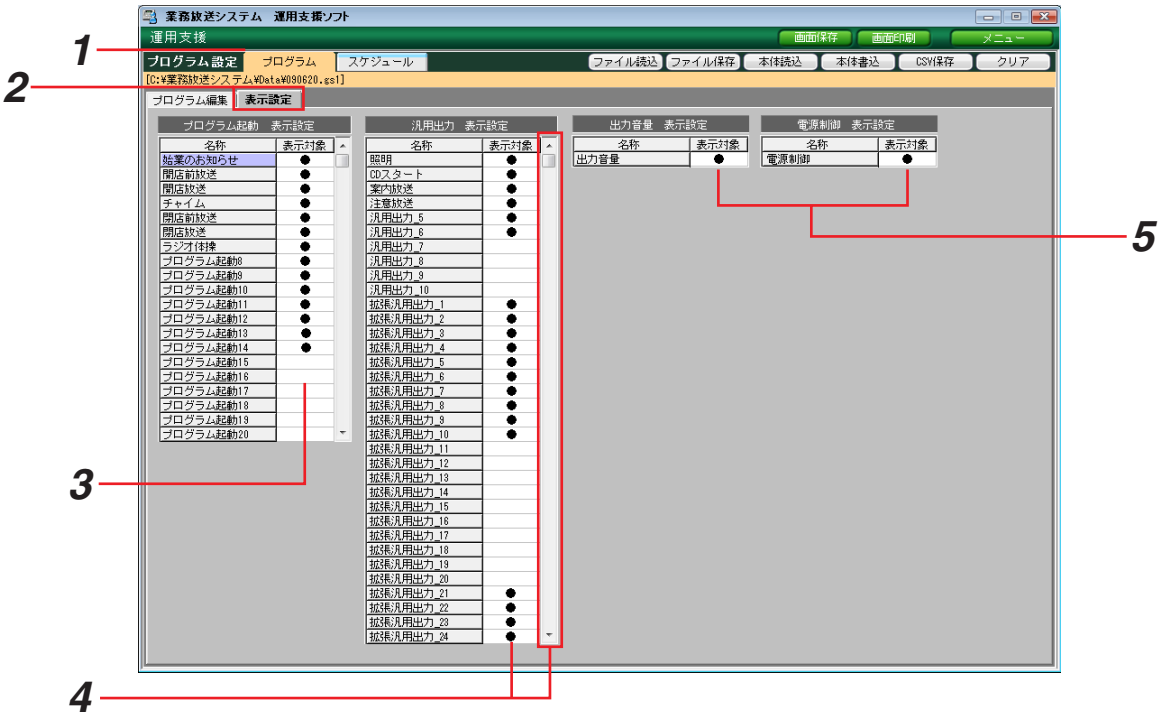
→ダイアログが閉じ、コピーされた内容が表示されます。

※上書きしたくない場合は［キャンセル］をクリックしてコピーを中止するか、上書きしてもよい別のプログラムを表示させて再度コピーを実行します。



表示設定のしかた

プログラム設定メニューとプログラムモニター画面で表示するプログラム起動や汎用出力の表示／非表示を設定します。
表示設定は本ソフトウェア上でのみ有効な設定ですので、本体書き込みや本体読み込みの対象外です。
初期設定：すべて表示（「●」あり）



1　［プログラム］タブを選択します。

2　［表示設定］タブを選択します。

3　プログラム起動（1～20）の中から、表示するものには「●」あり、非表示のものには「●」なし（空欄）に設定します。
［表示対象］の欄をクリックします。空欄の場合は「●」ありに、「●」ありの場合は空欄に切り換わります。

4　［汎用出力］（汎用出力と拡張汎用出力）の中から、手順3と同様に表示／非表示を選択します。

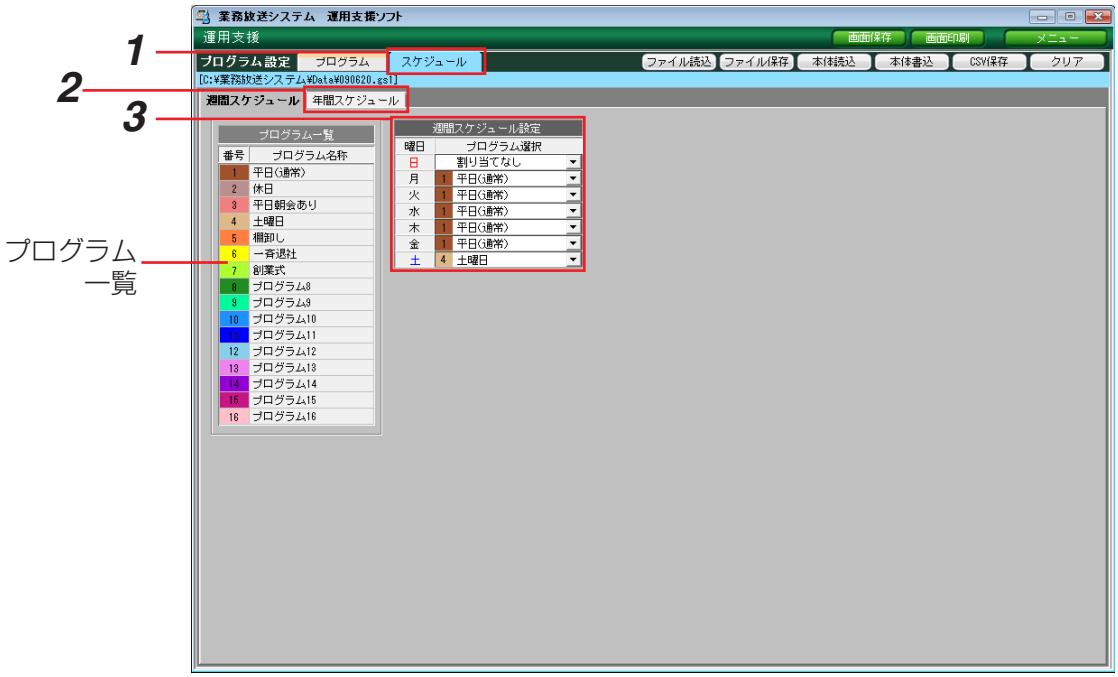
※プログラム設定／プログラムモニター画面での［プログラム起動］と［汎用出力］の表示行数は、最大で14行です。それ以上の数を表示対象とした場合は、名称スクロールバーを操作してください。

5　［出力音量］、［電源制御］を手順3と同様に表示／非表示を選択します。
非表示にすると、プログラム編集メニュー画面およびプログラムモニター画面上のそれぞれのタイムバー表示領域がなくなり、その分プログラム起動と汎用出力のタイムバー表示領域が拡がります。

スケジュール設定のしかた

週間スケジュールの設定

作成したプログラムを日曜～土曜の曜日単位で実行するよう割り当てたものを、週間スケジュールといいます。
週間スケジュールを設定すると、毎週同じ曜日に指定したプログラムを実行します。



1 ［スケジュール］タブを選択します。

2 ［週間スケジュール］タブを選択します。

3 コンボボックスで各曜日に割り当てるプログラム番号を選択します。「プログラム一覧」にプログラム編集画面で作成済みのプログラム名称が表示されていますので、設定の参考にします。
プログラムを実行しない（定休日など）場合は、［割り当てなし］を選択します。

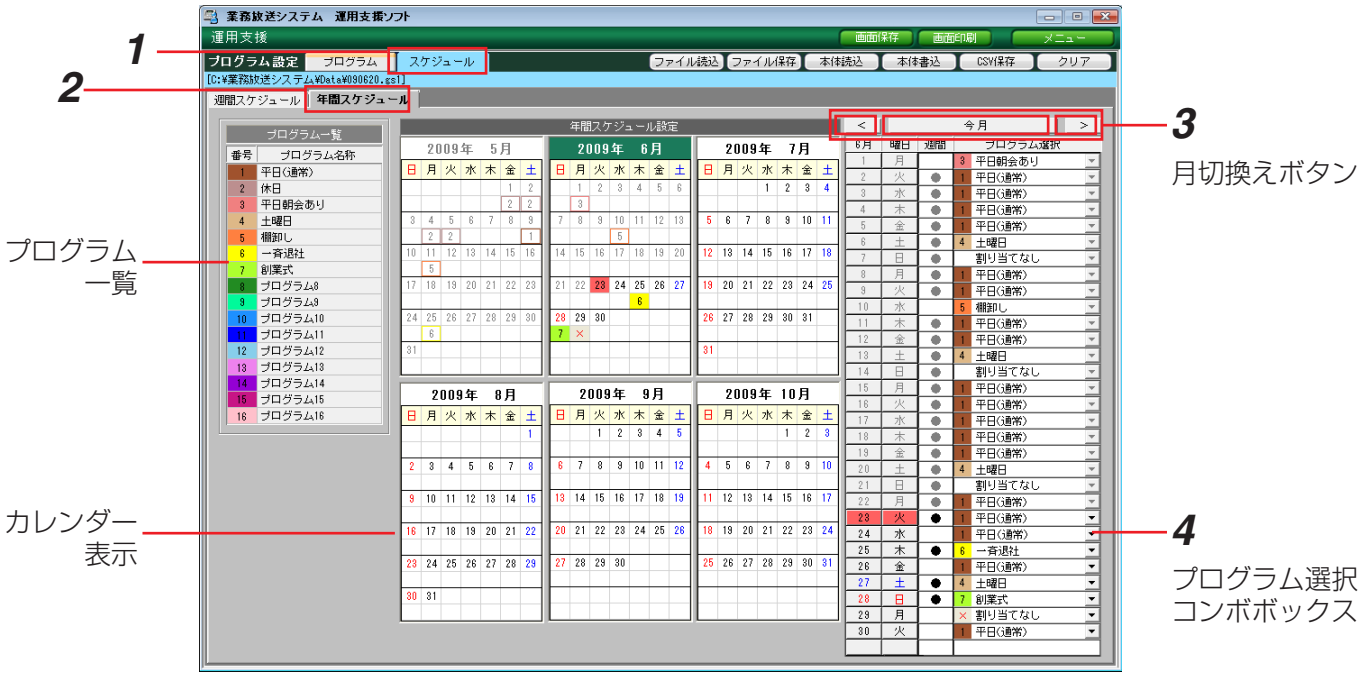
メモ

- 今日に該当する曜日の割り当てを変更し、「今日のプログラム」にも反映したい場合は、「設定データの本体への書き込み」（→30ページ）で、［現在実行中のプログラムも更新する］にチェックを入れてください。

年間スケジュールの設定

作成したプログラムを年間スケジュール（今日～翌年の昨日までの1年分）に割り当てます。

- 過去（昨日まで）は設定対象外のため薄色表示になっており、参照のみ可能です。
- 週間スケジュールが設定済みの日も年間スケジュールへの割り当ては可能で、優先的に実行されます。
- 今日の日付の割り当てを変更し、「今日のプログラム」にも反映したい場合は、「設定データの本体への書き込み」（→30ページ）で、［現在実行中のプログラムも更新する］にチェックを入れてください。



1 ［スケジュール］タブを選択します。

2 ［年間スケジュール］タブを選択します。

→年間スケジュール設定画面が表示されます。中央のカレンダー表示部には、6か月分（先月～4か月先）が、画面右側には月切換えボタンとプログラム選択コンボボックスが表示されます。

3 ［<］［>］をクリックして月を切り換え、来月以降の設定画面や、先月の設定（参照用）を表示します。

→スケジュール設定対象月が切り換わり、カレンダー表示部の年・月ラベル部が緑色に変わります。
切り換え表示範囲：先月～翌年の今月までの14ヶ月間
「今月」の表示に変えるには［今月］をクリックします。

4 今日以降のプログラム選択コンボボックスで、年間スケジュールに割り当てたい日付を操作します。

- 「今日」は日付と曜日が朱色で表示されます。カレンダー表示部中では日付の背景色が朱色の場所です。
- 週間欄の「●」は週間スケジュール設定済みを表し、年間スケジュールを設定すると空欄になります。
- カレンダー表示上には、年間スケジュールを設定した日付の下に色付きプログラム番号が表示されます。
- 年間スケジュールで［割り当てなし］を選択した場合は、番号ではなく「×」が薄いグレーで表示されます。

5 年間スケジュールの割り当てを解除するには、プログラム選択コンボボックスで［週間スケジュール］を選択します。

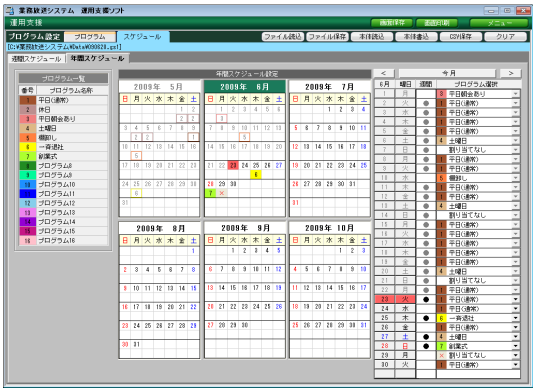
→週間欄に「●」が表示され、カレンダー表示部には、週間スケジュールで設定したプログラムが表示されます。また、カレンダー表示部からは、色付き番号の表示が消えます。

プログラム・スケジュールのクリア

設定したプログラムやスケジュールを消去します。消去したデータは元に戻せません。

1 プログラム設定メニューで［クリア］をクリックします。

→プログラムデータ　クリア選択ダイアログが表示されます。

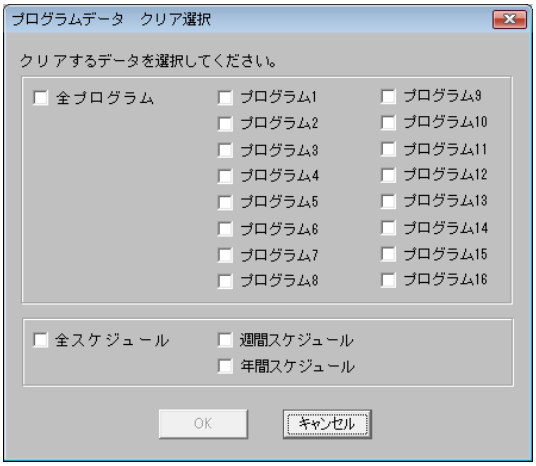


2 消去したい項目にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

※各グループの先頭の項目をチェックすると、そのグループ全部にチェックが入ります。

※選択を解除するには、チェックボックスを再度クリックしてチェックをはずします。

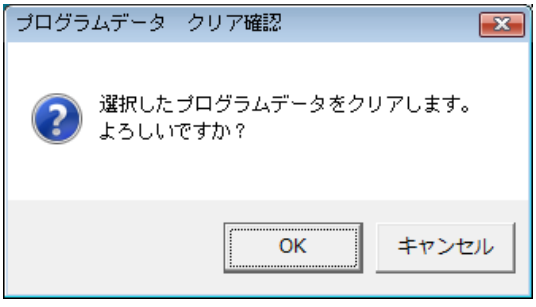
→プログラムデータ　クリア確認ダイアログが表示されます。



3 ［OK］をクリックします。

→ダイアログが閉じ、選択した項目の内容が消去されます。

※［キャンセル］をクリックすると、プログラムデータクリア選択ダイアログに戻ります。別の項目を選択するか、［キャンセル］をクリックしてクリアを中止してください。



名称設定のしかた

本ソフトウェア上（PC画面）と、本体の液晶画面上に表示する各種名称を設定します。
以下のとおり制限があります。

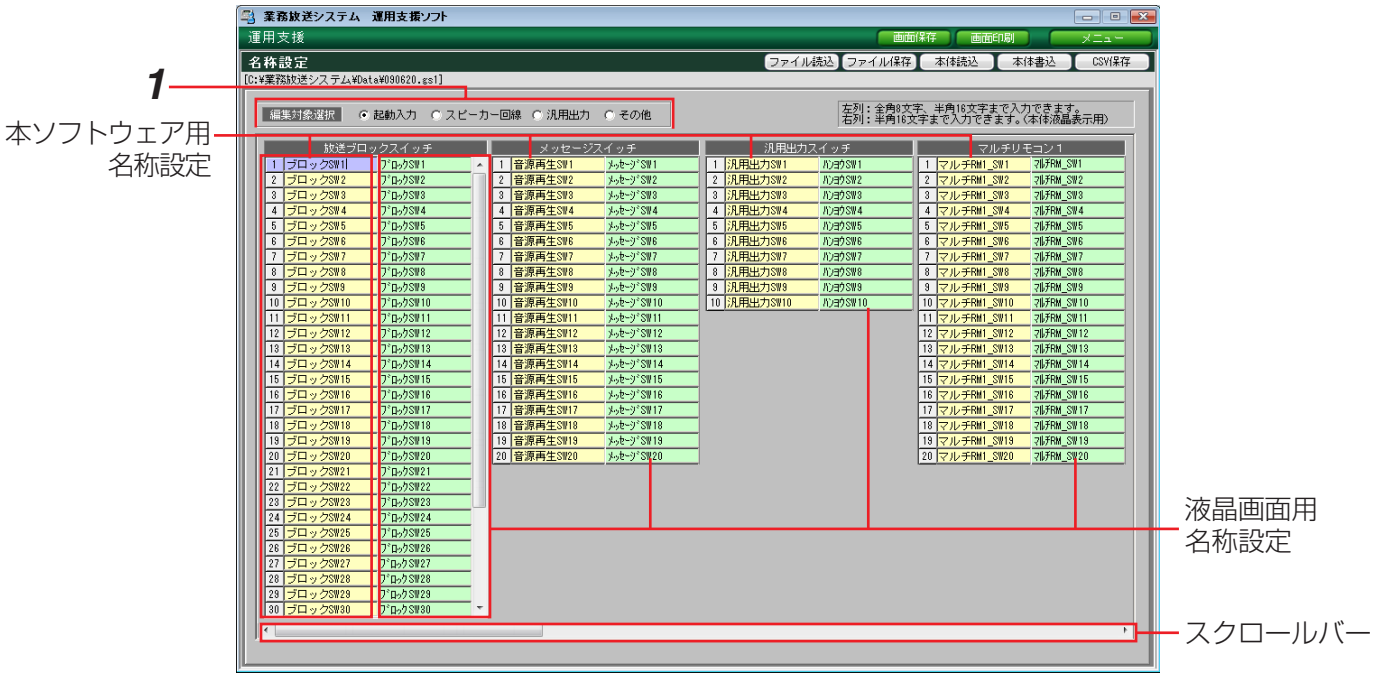
	本ソフトウェア	本体液晶画面
全角/半角	全角・半角（混用可）	半角のみ
文字数	最大全角8文字 （半角16文字相当）	最大16文字
文字種類	漢字・英文字AからZ（大文字+小文字）・平仮名・カタカナ・数字	英文字AからZ（大文字+小文字）・カタカナ・数字
記号	PC入力可能な記号	半角記号（「 ~ 」を除く）

機器構成などを本体と合わせるために、設定データを本体から読み込んで、設定してください。変更後は、本体書き込みを行ってください。
名称設定メニューは、メニュー画面で［名称設定］をクリックして開いてください。

設定できる名称と初期値は以下のとおりです。＊および＃には、機器構成にしたがった番号が付与されます。

編集対象	設定項目	本ソフトウェア用初期値	液晶画面用初期値
起動入力	スピーカー選択スイッチ（1～340）	ｽﾋﾟｰｶｰ選択SW***	SPｾﾝﾀｸSW***
	放送ブロックスイッチ（1～340）	放送ﾌﾞﾛｯｸSW***	ﾌﾞﾛｯｸSW***
	メッセージスイッチ（1～20）	ﾒｯｾｰｼﾞSW**	ﾒｯｾｰｼﾞSW**
	汎用出力スイッチ（1～10）	汎用出力SW**	ﾊﾝﾖｳSW**
	マルチリモコン(1～8)のスイッチ1～20	ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ**_SW##	ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ**_SW##
	リモコンマイクのスイッチ（1～160）	ﾘﾓｺﾝﾏｲｸSW***	ﾘﾓｺﾝﾏｲｸSW***
	チャイム※1	ﾁｬｲﾑ	ﾁｬｲﾑ
	ページング※1	ﾍﾟｰｼﾞﾝｸﾞ	ﾍﾟｰｼﾞﾝｸﾞ
	BGM※1	BGM	BGM
	外部制御入力（1～20）※1	外部制御入力**	ｶﾞｲﾌﾞ**
	拡張外部制御入力（1～140）※1	拡張外部入力***	ｶｸﾁｮｳ***
	制御グループ（1～20）※1	制御ｸﾞﾙｰﾌﾟ**	ｸﾞﾙｰﾌﾟ**
	緊急放送スイッチ（1～3）※1、※2	緊急放送SW*	ｷﾝｷｭｳSW*
	プログラム起動（1～20）※1	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ起動**	PGMｷﾄﾞｳ**
スピーカー回線	スピーカー回線（1～330）	ｽﾋﾟｰｶｰ回線***	―（設定なし）
汎用出力	汎用出力（1～10）	汎用出力**	ﾊﾝﾖｳｼｭﾂﾘｮｸ**
	拡張汎用出力（1～140）	拡張汎用出力***	ｶｸﾁｮｳｼｭﾂﾘｮｸ***
その他	音声出力CH（1～32）	音声出力CH_**	―（設定なし）
	個別EMG24Vブレイク（1～140）	EMG24V_***	EMG24V_***
	マルチリモコン（1～8）※1	ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ**	ﾏﾙﾁﾘﾓｺﾝ**
	リモコンマイク※1	ﾘﾓｺﾝﾏｲｸ	ﾘﾓｺﾝﾏｲｸ
	プログラム名称 （1～16）※1	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ**	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ**

※1 本体液晶の通常表示画面に表示される放送内容、プログラム名称は、本体液晶画面用名称の先頭から12文字目までを表示します。
※2 制御グループはシステム設定の「高度な設定」（→設定支援ソフト　取扱説明書）で設定されている場合に表示されます。



1 ［編集対象選択］から、名称設定する対象を一つ選択します。

→編集対象ごとの名称設定欄が表示されます。システム構成に応じて表示内容が異なります。

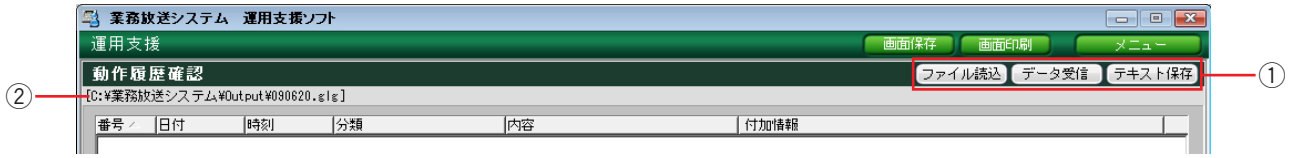
2 各欄の
左列：本ソフトウェア用の名称、背景色は黄色、全角および半角。
右列：本体液晶画面用、背景色は薄緑色、半角のみ。
編集したい箇所をクリックすると、背景色が紫色に変わり、文字入力カーソルが表示されます。
※スクロールバーが表示されている場合は、現在画面上に表示されていない設定欄があることを意味します。
スクロールバーを左右に操作してすべての編集対象をご確認ください。

動作履歴確認のしかた

本ソフトウェアには2種類の動作履歴に関する機能があります。一つは前述の運用モニター画面中の動作履歴タブのリアルタイムモニター機能、もう一つがこの動作履歴確認メニューで、履歴の保存などに使います。いずれも主に保守・点検のために使用する機能ですので、通常の運用時には使用しません。

本動作履歴確認メニューの主な特徴は以下のとおりです。
・本体でPCカードに保存したファイルを読み込む、［ファイル読込］。
・本体の動作履歴データを本体から受け取り内容確認する［データ受信］。
・表示している動作履歴データをテキスト形式で保存する、［テキスト保存］。
動作履歴確認メニューは、メニュー画面で［動作履歴確認］をクリックして開きます。

動作履歴確認メニューの構成は、画面上部以外は動作履歴モニター画面（→25ページ）と同様です。
ここでは、動作履歴モニター画面と異なる内容のみ紹介します。



①メニューバーボタン［ファイル読込］［データ受信］［テキスト保存］
本体からの動作履歴データの受信、ファイル操作などに関するボタンがあります。

②ファイル名表示
画面上に表示している動作履歴データのファイル名が表示されます。保存してあるデータを［ファイル読込］した場合は、保存先のフォルダーのパスから表示します。

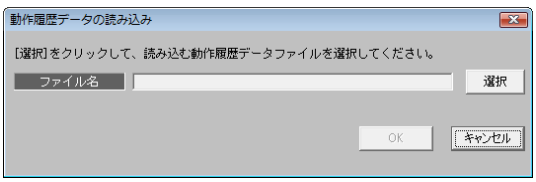
動作履歴データのファイル読み込み

PCに保存していた動作履歴データファイルを読み込みます。

1 メニューバーの［ファイル読込］をクリックします。

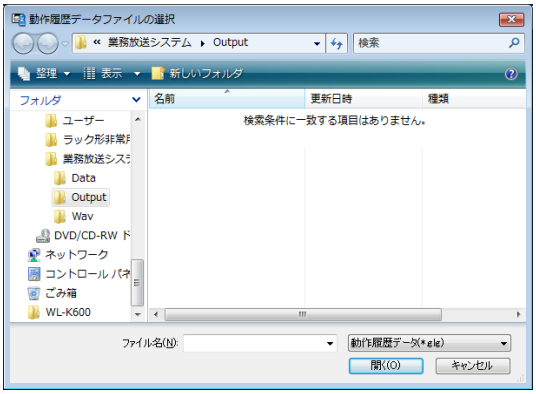
→動作履歴データの読み込みダイアログが表示されます。

2 ［選択］をクリックします。

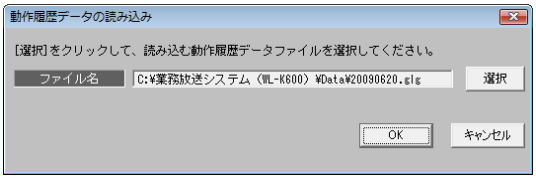


→動作履歴データファイルの選択ダイアログが表示されます。

3 読み込むファイルを選択し、［開く］をクリックします。
※ファイルの種類は、動作履歴データ（*.glg）に固定です。
※フォルダーは動作履歴データファイルの保存先を選択してください。初期設定では、以下のフォルダーが開きます。
C:¥業務放送システム¥Output

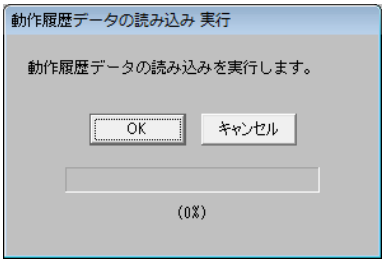


4 ［OK］をクリックします。



→動作履歴データの読み込み実行ダイアログが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



→読み込みが始まります。読み込みを開始すると、途中でキャンセルはできません。

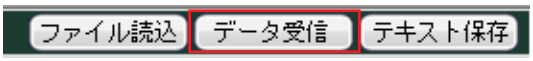
6 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→動作履歴確認メニューに戻り、読み込んだ動作履歴データの内容が表示されます。

動作履歴データの受信

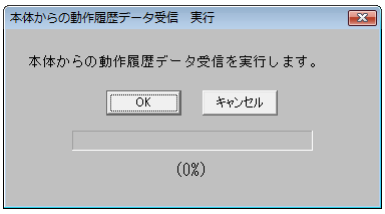
本体から動作履歴データを受信します。

1 本体とPCが接続されている状態で、メニューバーの［データ受信］をクリックします。



→本体からの動作履歴データの受信実行ダイアログが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。



→本体と正常に接続・通信している場合は、読み込みが始まります。読み込みを開始すると、途中でキャンセルはできません。

※COMポートオープン失敗ダイアログが表示される場合は、本体と正常に接続・通信しているかどうかを確認してください。（→19ページ）

3 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→動作履歴確認メニューに戻り、動作履歴データの内容が表示されます。

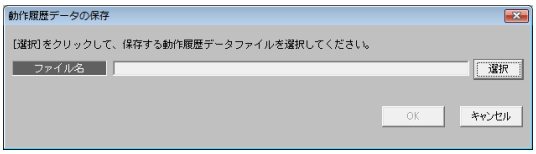
動作履歴データのテキスト保存

動作履歴データをテキスト形式で保存することができます。
テキスト形式のファイルは、テキスト編集ソフト（メモ帳・Notepadなど）で編集・印刷することができます。

1 メニューバーの［テキスト保存］をクリックします。

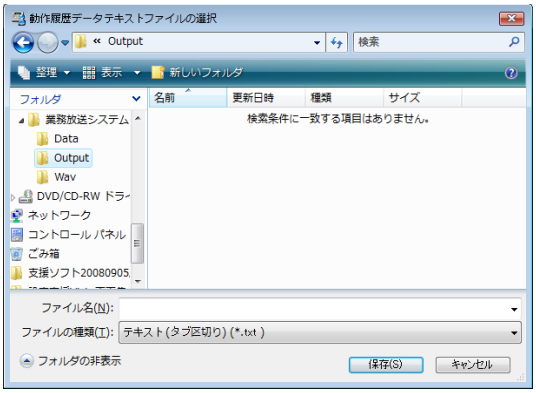
→動作履歴データのテキスト保存ダイアログが表示されます。

2 ［選択］をクリックします。



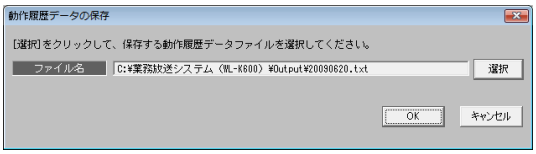
→動作履歴データテキストファイルの選択ダイアログが表示されます。

3 保存先のファイルを選択し、［保存］をクリックします。
※ファイルの種類は、テキスト（*.txt）から変更できません。
※新規ファイルに保存する場合は、ファイル名を入力します。



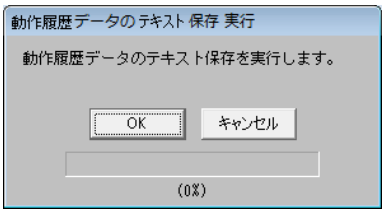
→動作履歴データのテキスト保存ダイアログに戻り、選択したファイル名が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。



→動作履歴データのテキスト保存実行ダイアログが表示されます。

5 ［OK］をクリックします。



→保存が始まります。保存を開始すると、途中でキャンセルはできません。
すでに同じ名前のファイルが存在する場合は、注意文が表示されますので、上書きしない場合はキャンセルしてください。

6 完了ダイアログが表示されたら、［OK］をクリックします。

→動作履歴確認メニューに戻ります。

データファイル管理について

本ソフトウェアで扱うデータファイルの種類とその内容を説明します。

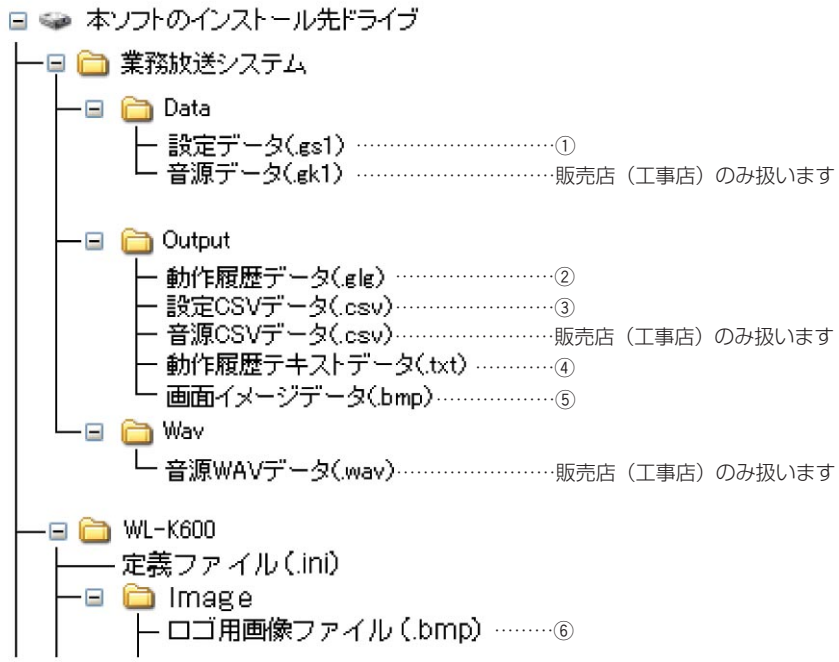
ファイルの種類

本ソフトウェアで扱うファイルは、以下のとおりです。

ファイル	拡張子	内容
①設定データ	.gs1	本システムの設定データファイルです。プログラムデータ、名称データを含みます。
②動作履歴データ	.glg	本体に記録された動作履歴データファイルです。動作履歴確認メニューから読み込むことができます。
③設定CSVデータ	.csv	設定データの内容をCSV形式で保存したファイルです。必要な項目を選択して保存できます。
④動作履歴テキストデータ	.txt	動作履歴データをテキスト形式で保存したデータファイルです。動作履歴確認メニューで保存できます。
⑤画面イメージデータ	.bmp	本ソフトウェアの画面イメージを取り込んだ画像ファイルです。各画面で保存できます。
⑥ロゴ用画像ファイル	.bmp	運用モニター画面のロゴ表示領域に表示する画像で、ユーザーが準備します。

フォルダーの構成

本ソフトウェアのインストール先ドライブの直下に「業務放送システム」フォルダーが作成されます。
上記①～④のデータファイルは、以下のフォルダー構成で保存されます（標準設定の場合）。



重要

- 設定データは、変更するたびにPCのハードディスクやメディアに保存して大切に保管してください。本システムを動作させたり、設定上のトラブルが発生した場合、復元するために必要なデータです。
- 運用支援ソフトをアンインストールすると、「WL-K600」フォルダーが削除されます。運用支援ソフトを再インストールする場合は、アンインストールの前に「WL-K600」フォルダーの「定義ファイル（.ini)」、「WL-K600 - Image」フォルダーの「ロゴ用画像ファイル（.bmp)」を保存してください。

ロゴ表示領域に画像を表示するには

運用モニター画面の共通部にあるロゴ表示領域に、任意の画像（ビットマップファイル）を表示する方法を説明します。

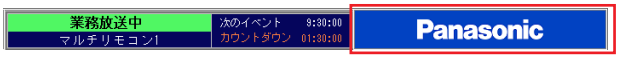
1 画像編集ソフト（Windowsの「ペイント」など）で、表示したい画像を用意します。
- ファイル種類　：24ビット　ビットマップ（*.bmp）
- サイズ　　：幅300ピクセル×高さ48ピクセルまで

2 用意した画像ファイルのファイル名を「Logo.bmp」に変えます。

3 そのファイルを以下のフォルダーに入れます。
C:¥WL-K600¥Image

4 →次回起動時から、運用モニターのロゴ表示領域に設定したビットマップデータが表示されます。

Panasonicロゴ表示例



PCカードについて

本体との各種データの受け渡しには、ケーブルで直接接続する以外に、PCカードを使用する方法があります。PCカードの挿入口は、本体内部にありますので、通常は使用しないでください。また、使用可能なPCカードの制約事項や使用上の注意事項がありますので、使用については、販売店（工事店）にご依頼ください。

警告ダイアログと対処方法

ここでは、操作中に表示される警告ダイアログについて説明します。

本ソフトウェアの起動時・通信設定時・終了時

メッセージ	原　因　・　対　策
起動時に必要なファイルが一部読み込めませんでした。 再度、運用支援ソフトのインストールを行ってください。	●ファイルが一部壊れている可能性がある →運用支援ソフトをアンインストールし、再度インストールを行ってください。 「インストールとアンインストール」（→12ページ）
COMポートのオープンに失敗しました。	●選択した番号がCOMポートとして使用できない →通信用のポート番号を選択し、やり直してください。 「通信設定のしかた」（→19ページ） ●本体とPCが正しく接続されていない →接続を確認してください。（→業務放送システム　工事説明書）

本体読み込み時・書き込み時

メッセージ	原　因　・　対　策
緊急放送中のため、書き込みを実行できません。 放送終了後、実行してください。	●緊急放送中は本体書き込みできません →緊急放送終了後、やり直してください。
本体側で設定操作中のため、書き込みを実行できません。 設定操作を終了後、実行してください。	●本体で書き込み作業中は、本体書き込みできません →書き込み作業終了後、やり直してください。その際、本体で行った設定の変更を本ソフトウェアの設定データにも反映するには、現在の設定データをファイル保存したうえで、本体読み込みを行い、そのデータに再度設定を行ってください。
本体側で書き込みを拒否されたため、書き込みを完了しませんでした。 再度実行してください。	●書き込みを開始したが、緊急放送が行われるか本体で書き込み作業を行うなど、途中で書き込みが中断された →設定が完全に書き込みされていません。中断の原因となる作業が終了してから、再度本体書き込みを行ってください。
COMポートのオープンに失敗しました。	●選択した番号がCOMポートとして使用できない →通信用のポート番号を選択し、やり直してください。 「通信設定のしかた」（→19ページ） ●本体とPCが正しく接続されていない →接続を確認してください。（→業務放送システム　工事説明書）

プログラム設定時

メッセージ	原　因　・　対　策
ステップの時間が重複しています。 重複しないように設定してください。	●同じ起動入力で、ステップの実行時間が重複している →重複しないように開始時刻や終了時刻を修正してください。
日付変更時刻をまたぐようなステップは、作成できません。 修正してください。	●ステップの開始時刻と終了時刻が同じなど、ステップの実行時間が日付変更時刻をまたいでいる →またがないように開始時刻や終了時刻を修正してください。
ステップの総数が999を超えるため、これ以上ステップを追加できません。	●1つのプログラムに登録したステップ数が999になっている →ステップ数は999以内になるようにしてください。

ファイル読み込み・保存時

メッセージ	原　因　・　対　策
このファイルは存在しないか、または設定データファイルではありません。 指定したファイル名が正しいかどうかを確認してください。	●ファイル読み込み時、設定データファイル以外のものを選択したか、または存在しないファイルを指定した。 →設定データファイルの拡張子は、(*.gs1)です。正しいファイルを読み込んでください。
設定データが編集中です。 CSV保存を行う前に、編集中のデータを保存してください。	●設定データをファイル保存せずに、[CSV保存] をクリックした。 →設定データをファイルに保存してからCSV保存を行ってください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、販売店（工事店）にご相談ください。
放送ができないなどの症状については、業務放送システム　取扱説明書の「故障かな!?」をお読みください。

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
運用支援ソフトを起動できない	●設定支援ソフトを起動していませんか？ →設定支援ソフトは販売店（工事店）向けに配信しているソフトウェアです。設定支援ソフトと本ソフトウェアは同時に起動することはできません。設定支援ソフトを終了してください。	14
USBケーブル経由で本体と通信できない	●専用ドライバーをインストールしましたか？ →本体のPC1コネクターとUSBケーブルで接続するには、専用ドライバーが必要です。付属のCD-ROMからインストールしてください。	12
プログラム設定した時刻になっても放送が始まらない	●プログラムが実行停止に設定されていませんか？ →本体でプログラムが停止に設定されていると、運用モニター画面に現在時刻やプログラム名称が表示されず、設定した時刻になっても放送が行われません。本体の前面パネルでプログラム実行を開始してください。	業務放送システム 取扱説明書
設定した名称が液晶画面に表示されない	●使用禁止文字を入力していませんか？ →本体の液晶画面に表示できるのは、半角カタカナ・半角英数字・既定の記号のみです。それ以外の文字が使用されているとその部分は空白となります。設定をやり直してください。	44

プログラム設定表

プログラムごとに、作成するステップ内容を記入します。コピーしてお使いください。

プログラム番号：　　プログラム名称：

開始時刻	終了時刻	プログラム起動		汎用出力		出力音量	電源制御	備考
		番号※1	名称※3	番号※2	名称※3	設定値	●を記入	
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							
:	:							

※1　プログラム起動番号1～20を記入します。
※2　汎用出力番号1～最大10、拡張汎用出力番号1～最大140を記入します。
※3　販売店（工事店）から入手した設定表を元に、プログラム起動、汎用出力の名称を記入してください。

スケジュール設定表

作成したプログラムの週間・年間スケジュールへの割り当てを記入します。コピーしてお使いください。

番号	プログラム名称	週間スケジュール（割り当てる曜日に●）							年間スケジュール（割り当てる日付を記入）			
		日	月	火	水	木	金	土	年／月／日	年／月／日	年／月／日	年／月／日
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												

動作履歴一覧

動作履歴モニター画面および動作履歴確認メニューに表示される動作履歴データの内容は、機器構成により異なります。
また、一つの操作により複数の同じような動作履歴が記録される場合がありますが、機器の動作としては、連動したそれぞれ異なる意味を持っています。以下に、主な内容例を示します。

通信や操作による動作で記録される履歴

分類	内容	付加情報	備考
システム起動	システム起動完了	バージョン情報	
	電源断処理開始		
設定メニュー	書き込みモード開始		本体操作による書き込み開始
	書き込みモード終了		本体操作による書き込み終了
	音量設定モード開始		本体操作による音量設定開始
	音量設定モード終了		本体操作による音量設定終了
	プログラムモード開始		本体操作によるプログラム設定開始
	プログラムモード終了		本体操作によるプログラム設定終了
データ更新	設定データ更新完了		本体操作または支援ソフトからの設定データ更新完了
	オリジナル音源データ更新完了		音源データの更新完了
	本体>>PCカード 設定データ 開始	ファイル名	本体操作によるPCカードへの設定データの保存開始
	本体>>PCカード 設定データ 完了		本体操作によるPCカードへの設定データの保存完了
	PCカード>>本体 設定データ 開始	ファイル名	本体操作によるPCカードからの設定データの書き込み開始
	PCカード>>本体 設定データ 完了		本体操作によるPCカードからの設定データの書き込み完了
	本体>>PCカード 音源データ 開始	ファイル名	本体操作によるPCカードへの音源データの保存開始
	本体>>PCカード 音源データ 完了		本体操作によるPCカードへの音源データの保存完了
	PCカード>>本体 音源データ 開始	ファイル名	本体操作によるPCカードからの音源データの書き込み開始
	PCカード>>本体 音源データ 完了		本体操作によるPCカードからの音源データの書き込み完了
	本体>>PCカード 動作履歴 開始	ファイル名	本体操作によるPCカードへの動作履歴データの保存開始
	本体>>PCカード 動作履歴 完了		本体操作によるPCカードへの動作履歴データの保存完了
	本体>>支援ソフト 設定データ 開始		支援ソフト操作による設定データ読み込み開始
	本体>>支援ソフト 設定データ 完了		支援ソフト操作による設定データ読み込み完了
	支援ソフト>>本体 設定データ 開始		支援ソフト操作による設定データ書き込み開始
	支援ソフト>>本体 設定データ 完了		支援ソフト操作による設定データ書き込み完了
	本体>>支援ソフト 動作履歴 開始		支援ソフト操作による動作履歴データ送信開始
	本体>>支援ソフト 動作履歴 完了		支援ソフト操作による動作履歴データ送信完了
蓄電池点検	自動蓄電池点検開始		自動蓄電池点検開始
	本体蓄電池点検完了		本体の蓄電池点検完了
	増設用出力制御蓄電池点検完了	ユニット情報	増設用出力制御ユニットの蓄電池点検完了
	拡張／非常制御蓄電池点検完了	ユニット情報	拡張／非常制御ユニットの蓄電池点検完了
	蓄電池点検時刻設定変更	設定時刻情報	自動蓄電池点検の時刻設定変更
点検	手動点検開始	点検項目	手動点検開始
	手動点検完了	点検項目	手動点検完了
	運用点検開始		運用点検開始
	運用点検完了		運用点検終了
緊急放送起動	緊急放送開始	起動要因	緊急放送起動
	緊急メッセージ再生開始		緊急メッセージ再生開始
	緊急復旧放送開始		緊急復旧放送開始
	緊急復旧メッセージ再生開始		緊急復旧メッセージ再生開始
	緊急復旧放送終了		緊急復旧放送終了
業務放送起動	業務放送開始 **CH	起動要因	業務放送開始 **：入力マトリクスユニットの入力CH
	マイク放送開始		マイク放送開始
	マイク放送終了		マイク放送終了

分類	内容	付加情報	備考
プログラム コントローラー	日付変更時刻	プログラム番号	日付変更発生
	当日プログラム差し換え	プログラム番号	今日のプログラム差し換え実行
	プログラム制御開始	プログラム番号	プログラム制御開始
	プログラム制御停止		プログラム制御停止
	時刻補正実施	補正情報	時刻補正実行
	プログラム起動	制御情報	プログラム:プログラム起動ステップ実行
	汎用出力制御開始		プログラム:汎用出力ステップ実行開始
	汎用出力制御終了		プログラム:汎用出力ステップ実行終了
	音量制御開始	音量情報	プログラム:出力音量ステップ実行開始
	音量制御終了	音量情報	プログラム:出力音量ステップ実行終了
	POWER-CONT制御開始		プログラム:電源制御ステップ実行開始
	POWER-CONT制御終了		プログラム:電源制御ステップ実行終了
内蔵音源	標準メッセージ再生開始	メッセージ情報	標準メッセージ再生開始
	標準メッセージ再生終了	メッセージ情報	標準メッセージ再生終了
	オリジナルメッセージ再生開始	メッセージ情報	オリジナルメッセージ再生開始
	オリジナルメッセージ再生終了	メッセージ情報	オリジナルメッセージ再生終了
	標準コールサイン再生開始	コールサイン情報	標準コールサイン再生開始
	標準コールサイン再生終了	コールサイン情報	標準コールサイン再生終了
	オリジナルコールサイン再生開始	コールサイン情報	オリジナルコールサイン再生開始
	オリジナルコールサイン再生終了	コールサイン情報	オリジナルコールサイン再生終了
	点検音源再生開始	点検音源情報	点検音源再生開始
	点検音源再生終了	点検音源情報	点検音源再生終了
入力情報	優先一斉	制御情報	優先一斉放送SW押下
	一般一斉	制御情報	一般一斉放送SW押下
	放送復旧	制御情報	放送復旧SW押下
	コールサイン	制御情報	コールサインSW押下
	マイクSW ON	制御情報	マイクSW押下
	マイクSW OFF	制御情報	マイクSW押下終了
	個別優先	制御情報	個別優先SW押下
	スイッチ操作	制御情報	業務選択SW押下、マルチリモコンのブロックSW押下
	ブロック一斉	制御情報	増設用操作ユニットのブロック一斉SW押下
	ブロック復旧	制御情報	増設用操作ユニットのブロック復旧SW押下
	ブザー停止	制御情報	マイクドア内:ブザー停止SW押下
	蓄電池点検	制御情報	マイクドア内:蓄電池点検SW押下
	緊急外部制御入力 連動	制御情報	マイクドア内:緊急外部 連動切換SW押下
	緊急外部制御入力 放送移行	制御情報	マイクドア内:緊急外部 放送移行SW押下
	チャイム	制御情報	チャイム制御入力
	BGM	制御情報	BGM制御入力
	ページング	制御情報	ページング制御入力
	外部制御入力	制御情報	外部制御入力
	緊急放送	制御情報	緊急外部制御入力
	停電起動	制御情報	停電起動入力
	非常放送優先制御入力	制御情報	非常放送制御入力
	リモコンマイク一斉	制御情報	リモコンマイクの一斉SW押下
	リモコンマイクコールサイン	制御情報	リモコンマイクのコールサインSW押下
	リモコンマイク放送制御	制御情報	リモコンマイクの放送制御SW押下
	リモコンマイクブロックSW	制御情報	リモコンマイクのブロックSW押下
	一斉放送	制御情報	マルチリモコンの一斉放送SW押下
	放送開始	制御情報	マルチリモコンの放送開始
	個別放送	制御情報	マルチリモコンの個別放送実行時
	選択解除	制御情報	マルチリモコンの選択解除SW押下
	放送終了	制御情報	マルチリモコンの放送終了

分類	内容	付加情報	備考
支援ソフト	PC制御開始		支援ソフトからの制御開始
	PC制御終了		支援ソフトからの制御終了
その他	SP回線制御 **-**	スピーカー回線情報	スピーカー回線制御 **：制御対象のスピーカー回線番号
	状態出力	状態出力情報	状態出力制御
	汎用出力	汎用出力情報	汎用出力制御
	拡張汎用出力 **-**	拡張汎用出力情報	拡張汎用出力制御 **：制御対象の汎用出力端子番号
	一斉EMG24V制御	一斉EMG24V情報	一斉EMG24Vブレイク制御
	個別EMG24V制御 **-**	個別EMG24V情報	個別EMG24Vブレイク制御時 **：制御対象の個別EMG24V端子番号
	機器構成 初期化完了		本体操作による機器構成の初期値化実行時
	機器構成 情報取得完了		本体操作による機器構成の取得実行時

異常状態の発生および復旧時に記録される履歴

分類	マーク	内容	付加情報	備考
エラー発生	×	外部機器異常		外部機器異常検出
	△	外部機器異常復旧		外部機器異常復旧
	×	SP回線短絡	スピーカー回線情報	スピーカー回線短絡検出
	△	SP回線短絡復旧	スピーカー回線情報	スピーカー回線短絡復旧
	×	一斉EMG24V異常	一斉EMG24V情報	一斉EMG24V異常検出
	△	一斉EMG24V異常復旧	一斉EMG24V情報	一斉EMG24V異常復旧
	×	個別EMG24V異常	個別EMG24V情報	個別EMG24V異常検出
	△	個別EMG24V異常復旧	個別EMG24V情報	個別EMG24V異常復旧
	×	マルチリモコン通信異常	マルチリモコン番号	マルチリモコン通信異常検出
	△	マルチリモコン通信異常復旧	マルチリモコン番号	マルチリモコン通信異常復旧
	×	出力･拡張/非常制御ユニット通信異常	ユニット情報	出力･拡張/非常制御ユニット通信異常検出
	△	出力･拡張/非常制御ユニット通信異常復旧	ユニット情報	出力･拡張/非常制御ユニット通信異常復旧
	×	増設用操作ユニット異常	ユニット情報	増設用操作ユニット通信異常検出
	△	増設用操作ユニット異常復旧	ユニット情報	増設用操作ユニット通信異常復旧
	×	入力マトリクスユニット通信異常	ユニット情報	入力マトリクスユニット通信異常検出
	△	入力マトリクスユニット通信異常復旧	ユニット情報	入力マトリクスユニット通信異常復旧
	×	AC電源OFF		AC電源OFF検出 ※停電発生時に検出されます。
	△	AC電源ON		AC電源ON検出 ※停電復旧時に検出されます。
	×	本体蓄電池異常		本体の蓄電池異常検出
	△	本体蓄電池異常復旧		本体の蓄電池異常復旧
	×	出力制御ユニット蓄電池異常	ユニット情報	出力制御ユニットの蓄電池異常検出
	△	出力制御ユニット蓄電池異常復旧	ユニット情報	出力制御ユニットの蓄電池異常復旧
	×	拡張／非常制御蓄電池異常	ユニット情報	拡張／非常制御ユニットの蓄電池異常検出
	△	拡張／非常制御蓄電池異常復旧	ユニット情報	拡張／非常制御ユニットの蓄電池異常復旧
	×	リモコンマイク電源異常		リモコンマイクの電源異常検出
	△	リモコンマイク電源異常復旧		リモコンマイクの電源異常復旧
	×	マルチリモコン電源異常	電源系統情報	マルチリモコンの電源異常検出
	△	マルチリモコン電源異常復旧	電源系統情報	マルチリモコンの電源異常復旧
	×	PCカード ライト異常		PCカードへのライト異常検出 PCカードの確認を行ってください。
	×	PCカード リード異常		PCカードからのリード異常検出 PCカードの確認を行ってください。
	×	時計異常		内蔵時計異常検出 本体に時刻設定画面が表示されますので、現在の年月日と正確な時刻を設定してください。 (→業務放送システム　取扱説明書)

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック株式会社　システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル
0120-878-410（パナハ　ヨイワ）　**受付：9時～18時（土・日・祝日除く）**

ホームページからのお問い合わせは　http://panasonic.biz/pss/info

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため記入されると便利です	お買い上げ日	年　月　日	品　番	WL-K600
	販売店名	電話（　　）　－		

パナソニック株式会社
システムソリューションズ社

〒223-8639　横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

© Panasonic Corporation 2009

3TR005793AAB
N0309-0